

Annual Report

2018



関西学院大学 人間福祉学部
実践教育年報

Annual Report

2018



関西学院大学 人間福祉学部
実践教育年報

2018年度年報 目次

はじめに	1
建学の精神と実践教育の位置づけ	3
実践教育支援室の位置づけと機能	5

社会福祉学科

(1) カリキュラムフロー	9
(2) 実践教育科目	
ソーシャルワーク実習入門	10
ソーシャルワーク実習	13
福祉社会フィールドワーク	15
精神保健福祉援助実習	17
ソーシャルワーク・インターンシップ	19
医療ソーシャルワーク・インターンシップ	20
学校ソーシャルワーク実習	22
大学院アドバンスト・フィールドワーク	24
(3) 実践教育関連科目	
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	25
ソーシャルワーク演習Ⅳ	26
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	29
ソーシャルワーク演習Ⅴ	31
福祉社会フィールドワーク指導	32
ソーシャルワーク論B	33
ソーシャルワーク論F	34

社会起業学科

(1) カリキュラムフロー	37
(2) 実践教育科目	
社会起業フィールドワーク（国内）	38
社会起業フィールドワーク（海外）	39
社会起業プラクティス	40
社会起業インターンシップ（国内）	41
社会起業インターンシップ（海外）	42
社会起業アドバンスト・インターンシップ	43

人間科学科

(1) カリキュラムフロー	47
(2) 実践教育科目	
人間科学フィールドワーク入門	48
人間科学フィールドワーク	50
(3) 実践教育関連科目	
野外教育実習A	52
野外教育実習B	53
野外教育実習指導Ⅰ	54
野外教育実習指導Ⅱ	55
運動生理学実験実習	56
スポーツバイオメカニクス実験実習	57

正課外での取り組み

(1) 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験☆合格塾☆	61
(2) 社会起業学科 新入生歓迎プログラム「社起やDAY！」	62
(3) 福祉系進路相談セミナー	63
(4) 人間福祉学部 実践教育報告会	66
(5) 社会福祉士実習合同研究会・懇談会	68

資 料

2018年度 実習・インターンシップ等概要データ	71
2018年度 実習・インターンシップ・フィールドワーク先一覧	72
2018年度 実践教育科目担当教員一覧	78
2018年度 発行物一覧	81

はじめに

関西学院大学実践教育支援室より 2018 年度の Annual Report（実践教育年報）をお届け致します。今年度も実践教育でお世話になった様々な現場の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

2008 年 4 月に開設された人間福祉学部も、今年度で 10 周年を迎えることができました。5 月に開設 10 周年記念行事が挙行され、同日「支援室リュニオン」を開催いたしました。社会学部社会福祉学科の実習指導室以降、関学の実践教育にスタッフ、教員としてかかわってくださった関係者の皆様にお集まりいただき、いかに多くの方々に支えられ、ここまで歩んでこれたのかを実感いたしました。

この 10 年間に、社会福祉学科では 2 度に渡る社会福祉士養成のカリキュラムや実習体制の変更が行われ、それらに対応する形で現場指導者の皆様と様々に協働させていただきました。また社会福祉士資格取得を目指さない学生たちを対象とした福祉社会フィールドワークという科目的導入によって、バラエティに富んだフィールドワーク先での学びが可能となり、本学実践教育の特色ある科目の一つとなりつつあります。社会起業学科では、1 年次に国内、国外の社会起業フィールドワーク、2 年次で社会起業プラクティス関連科目、2 年秋から 3 年次にかけて社会起業インターンシップ関連科目を、4 年次でアドバンストの科目と整理された形で実践教育が開講され指導が行われています。また人間科学科では、1 年次の人間科学実習入門の必修化、人間科学フィールドワークの履修基準年度を 3 回生にするなど、学生の実情に合わせた形での変更が加えられてきました。

これら 3 学科での実践教育の成果は、12 月の人間福祉学部実践教育報告会において、ポスターセッションとして発表され、この報告会は学部の大切な年間行事の一つとなっています。今年度からは、社会福祉学科のソーシャルワーク実習についても、領域ごとに 1 枚のポスターを使って報告を行うようになり、報告会の規模も年々大きくなってきております。

人間福祉学部では 2020 年度より新カリキュラムによる教育を行う準備を進めております。学科の垣根を低くした、3 学科合同の基礎演習や実践教育を行い、異なる学科の学生が、それぞれの学科の特徴を反映したねらいを持って様々な体験を行い、それらを共有しながら学ぶといった教育方法の計画もなされています。

学部のミッションでもある 3 つの C の具体化、社会における様々な課題のソリューションに貢献できる人材養成を目指して、今後も、より充実した実践教育の展開に向けて、教育・研究機関としての教育内容、体制のますますの向上に努めてまいりますので、引き続きのご指導、ご鞭撻をいただきますよう、何卒よろしくお願ひ致します。2018 年度の総括としての年報をご一読いただき、皆さまからの率直な意見、ご要望をいただければ幸いです。

関西学院大学人間福祉学部
実践教育支援室
室長 川島 恵美

建学の精神と実践教育の位置付け

● 建学の精神 ●

本学の教育は、キリスト教主義を基礎とした実践的な学びの重視をその伝統としている。本学キリスト教主義には、第4代院長C・L・ベース博士が唱えた“Mastery for Service”（奉仕のための練達）というスクールモットーとして表現された「社会福祉の精神」がその根底にあり、それら両者が本学における教育のバックボーンを形成しているといえる。すなわち、本学の教育には、建学の精神であるキリスト教主義と、スクールモットーとによって裏付けられた「社会福祉の精神」が脈々と流れているのである。この本学の教育理念は、具体的な社会福祉の実践において、謙虚さと人を愛する行為に表される。言うまでもなく価値・倫理を備えた専門的実践者の養成は、一つの宗教的背景のみによってなされ得るものではないが、今後いっそうの拡大と重要性が増す社会福祉において、本学の教育が果たし得る役割を増大するものと考える。それは本学に学ぶ者の「人への思いやり」、「豊かな情操と人道的素地をもって福祉に取り組む力」に反映されると確信している。

● 人間福祉学部の意義と目的 ●

本学人間福祉学部は、ニーズが拡大する日本の社会福祉における専門教育機関として、上記の建学の精神の「奉仕のための練達」を土台とする、文学部社会事業学科からの伝統ある社会福祉教育をより一層充実させ、21世紀の福祉を担う人材養成に貢献するために2008年4月に創設された。その教育目標は、次の3つの「C」を身につけ、専門職としてあるいは市民として社会福祉の向上に貢献する人材を育成することにある。

- ① グローバルに考え、具体的かつ創造的に行動する力 (Comprehensiveness)
- ② 高度な問題解決とマネジメントを行う能力 (Competence)
- ③ 豊かな情操と人道的素地をもって福祉に取り組む能力 (Compassion)

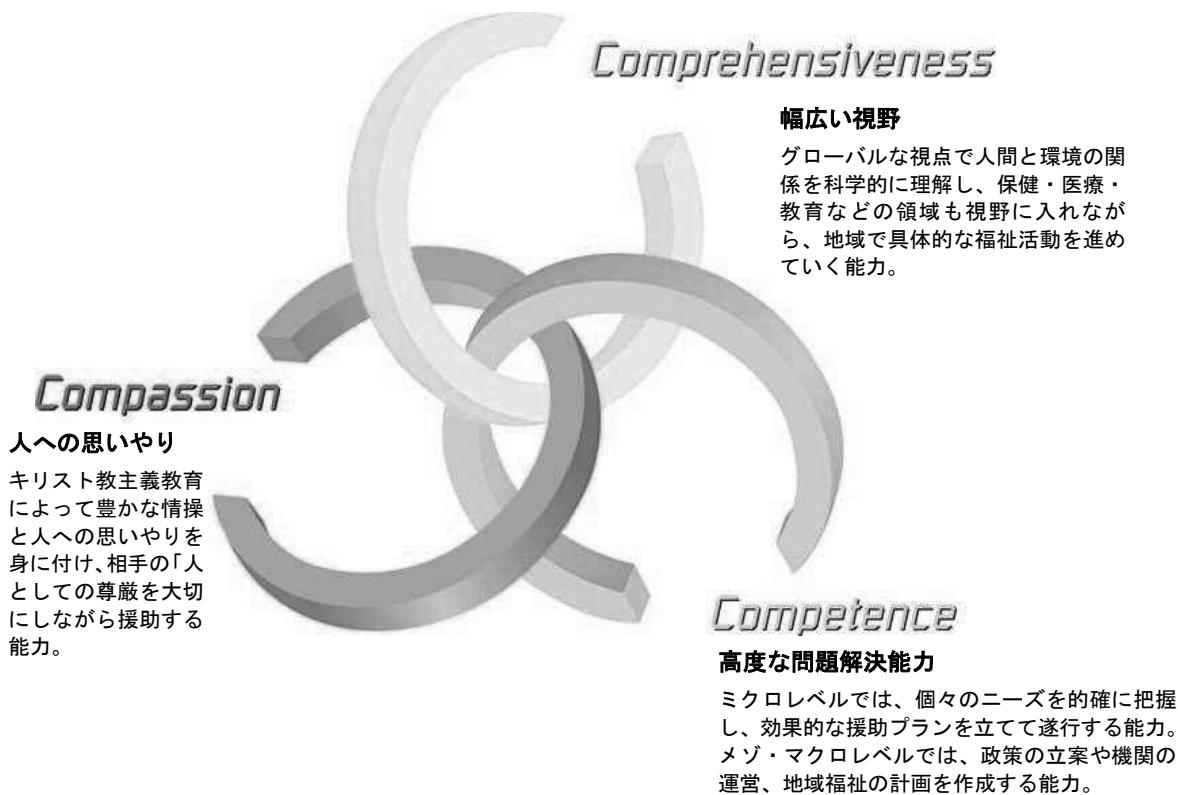
特に②の能力は、専門職であれ地域のリーダーであれ、福祉の推進を実践する力 (Competence) として重要なものである。この能力が広い視野 (Comprehensiveness) とキリスト教主義教育によって培われた人としての思いやり (Compassion) と一つになる時、21世紀の福祉を支える極めて有用な人材が育成されるものと考える。

● 建学の精神 ●

本学部の実践教育は、先述のような人材を育成するために不可欠なカリキュラムであり、社会福祉教育の根幹をなすものである。具体的には、本学部の実践教育では以下の内容を重視する。

- ① 社会福祉の価値を学ぶ。
- ② 福祉ニーズの個別性と独自性を学ぶ。
- ③ 問題解決にとって効果的な社会福祉の援助方法を学ぶ。
- ④ 社会福祉援助に必要な態度について学ぶ。
- ⑤ 社会福祉援助を評価する調査方法を学ぶ。
- ⑥ 施設・機関の機能、役割と社会制度における位置づけを学ぶ。
- ⑦ 施設・機関の運営や社会資源の活用の方法を学ぶ。
- ⑧ 施設・機関職員の業務に対する姿勢について学ぶ。
- ⑨ 施設・機関の抱える諸問題と解決方法について学ぶ。

● 3つの C がキーワード ●



実践教育支援室の位置づけと機能

実践教育支援室は、本学人間福祉学部の実習やインターンシップ等の実践教育が、スムーズかつ実りあるものとなるよう、学生をサポートしている。社会福祉施設をはじめとして200近くの幅広い施設や機関等と学生との橋渡し的存在である。

職員体制

室長 1人 ／ 准教授 1人 ／ 助教 1人 ／ 実習助手 5人 ／
実験実習指導補佐 1人 ／ アルバイト職員 1人

場 所

G号館 2階

開室時間

月～金曜日 8:50～18:20
土曜日 8:50～12:20
(休暇期間中等は変更)



主な業務

◆教育体制を整える

- 実践教育関連科目のプランニングとコーディネート
- 実践教育関連科目を履修する学生の個別ニーズに応じたサポート

◆連携体制を整える

- 実践教育機関との連携構築と維持
- 実習配属および実習先との連絡調整
- 本学OB・OGとの連携構築と維持
- ソーシャルワーク教育学校連盟・社会福祉士会・精神保健福祉士協会等の関連団体との協力

◆調査・研究体制を充実させる

- 実践教育に関する調査・研究の推進
- 実践教育プログラムおよび教材の開発

教室紹介

(1) 多機能演習室

多機能演習室は、様々な用途で使用でき、土足厳禁の広いスペースとなっているので、多人数のワークショップやフロアでの作業も可能である。また、可動式のモニター、ビデオカメラ等を設置すると、コミュニケーションラボとしても使用することができる。福祉や教育など人と人とのかかわりが中心となる場面では、様々なコミュニケーションが重要な役割を果たすことになる。特にソーシャルワーク実践においては、より良いコミュニケーションスキルはあらゆる側面で必要とされると言われている。そのために、まず自分自身の持つコミュニケーションパターンを理解し、状況に応じたスキルトレーニングを行うことが欠かせない。そこで本学ではコミュニケーションラボシステムを使って体験的な学びの場を開発している。ラボでは、ビデオカメラ、モニター、DVD/VHSプレイヤー、デジタルAVミキサーなどの機器を用い、面接シミュレーションやロールプレイングを行い、録画した面接場面の映像を利用してフィードバックや分析などを行う。また、ラボ用に開発されたアクション型のDVD教材を用いての応答パターン演習など様々な実践的かつ体験的な学びの機会を提供している。



(2) 面接室・観察室

面接室はビデオカメラが2台天井に設置されており、面接室全体の録画が可能である。また、面接室と観察室の間にone-way-mirrorが設置されており、面接室の状況を観察室からリアルタイムで観察することができる。こうした準備教育によって、現場での実習やフィールドワークの場面に自信を持って臨むことが可能となる。



(3) グループワーク室

演習や実習指導、学生の正課外での社会貢献活動、各種実践教育に関連する会議やゼミナール・研究会等、様々な用途で利用されている。



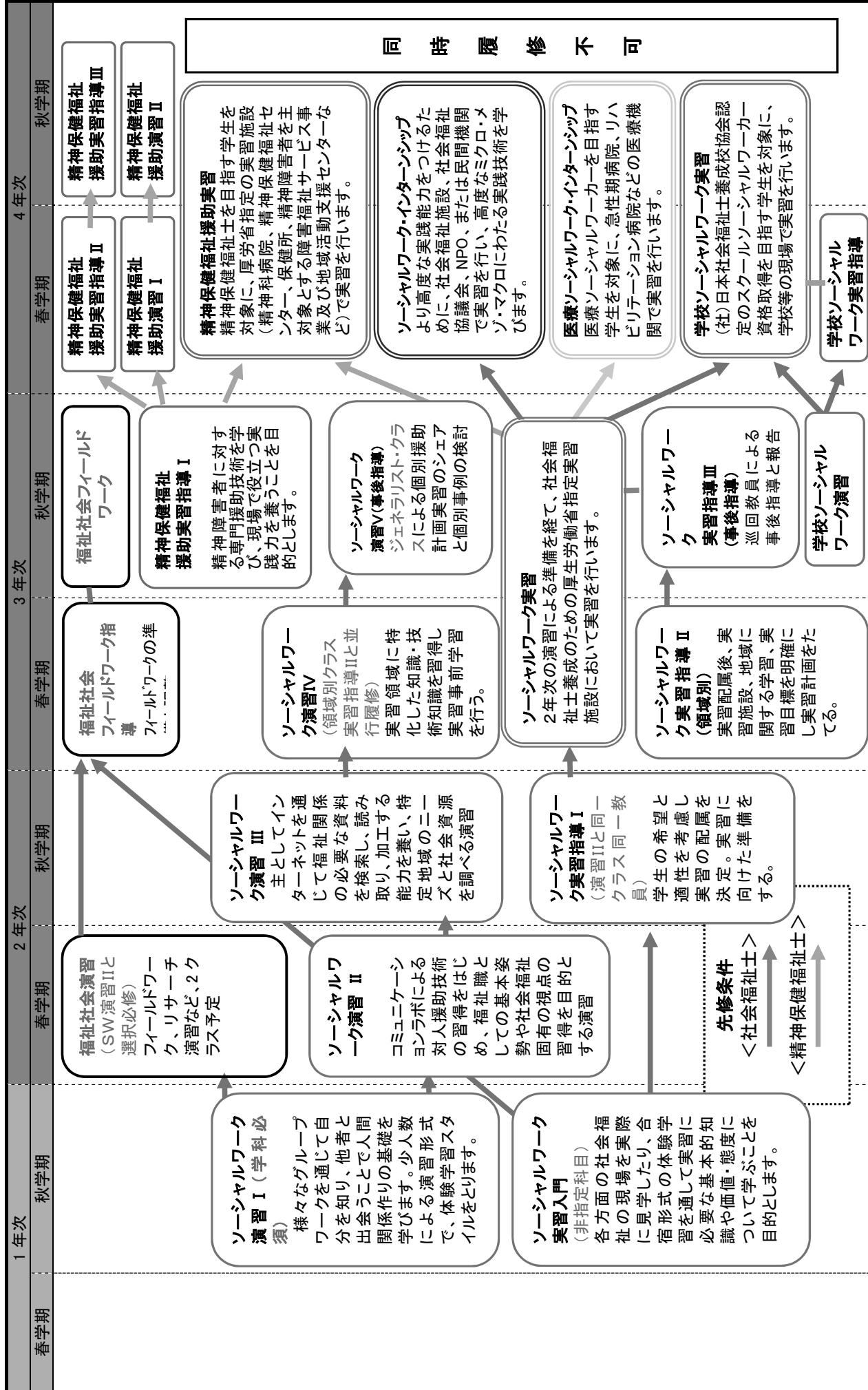
(4) 個人面談室

学生の相談、個別の実習指導等で使用されている。



◆ 社会福祉学科 ◆

<社会福祉学科> ※2012年度入学生より対象



ソーシャルワーク実習入門

【担当教員】伊藤安佐子、川島恵美、西田麻由香、原弘輝、平尾昌也、前窪郁、李善惠

【授業目的】

本科目は、社会福祉学科における実践教育指導の第一段階として、見学実習を通じて実際に施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する現状把握を行い、基本的な知識を増進させ、現場に関するイメージを持つと同時に、合宿での体験学習を通じて実践教育に必要な人間関係における基本的価値や態度について学ぶことを目的とする。

【授業内容】

○合宿を通じた体験学習

日 時：2018年10月13日（土）～14日（日）1泊2日

場 所：関西学院千刈キャンプ場

参加者：履修学生107名、人間福祉学部2～4回生のラーニングアシスタント10名、

人間福祉学部教員3名、実習助手3名 計123名

〈合宿のスケジュールと概要〉

10月13日（土）

11:00 キャンプイン・会場設営・オリエンテーション

12:00 昼食

13:00 セッションI 「自分とかかわる」

14:30 セッションII

「仲間とかかわる～千刈オリエンテーリング」

17:00 チェックイン・休憩

18:00 夕食

19:00 セッションIII

「先輩とかかわる～先輩とのぶっちゃけトークセッション」

20:30 フリートーク・入浴

22:30 就寝



10月14日（日）

7:30 朝食

9:00 セッションIV

「実践教育とかかわる～合宿をふりかえる～」

12:00 昼食

13:00 セッションV 「合宿のふりかえりとまとめ」



15:00 クロージング



○見学実習

見学実習は、①事前学習、②見学実習、③ふりかえり会というスケジュールで実施した。

- ① 事前学習では、各実習先施設・機関の概要、分野・領域の制度などについて説明を行ったうえで、記録用紙の書き方、観察記録・レポートの書き方、ふりかえり会についての事前説明を実施した。
- ② 見学実習では、指定された高齢者・障害者・児童・貧困・母子・多文化・地域福祉領域の施設・機関での見学を行った。
- ③ ふりかえり会では見学先の施設・機関ごとのグループワークによって実施され、学生にはふりかえり後、見学記録の作成・提出を求めた。

訪問日程	訪問先
11月1日（木）	NPO法人 神戸定住外国人支援センター
11月1日（木）	福) 西宮市社会福祉協議会 地域共生館 ふれぼの
11月1日（木）	福) 慶徳会 静華苑
11月1日（木）	福) 慶徳会 児童養護施設 子供の家
11月2日（金）	福) みおつくし福祉会 母子生活支援施設 東さくら園
11月2日（金）	ANA ウィングフェローズ・ヴィ王子株式会社
11月2日（金）	福) きらくえん あしや喜楽苑
11月2日（金）	福) 芦屋メンタルサポートセンター
11月2日（金）	福) 水仙福祉会 姫島こども園
11月3日（土）	NPO法人 暮らしづくりネットワーク北芝
11月3日（土）	福) 神戸真生塾
11月10日（土）	釜ヶ崎／福)石井記念愛染園 西成市民館



○タウンウォッチング

タウンウォッチングは、①事前学習、②タウンウォッチング、③ふりかえり会というスケジュールで実施した。

- ①事前学習では、キャンパス内ウォッチングを実施した。人が仲良く集まれそうな場所・様子、気になる人・もの・場所・様子、まちの自慢と思うもの、不便と思う人・もの・場所・様子などを見て回った。
- ②事前学習をもとに、自分たちのまち（市区町村）の基礎データとして面積や人口、高齢化率、歴史や伝統などを調べたうえで、各自タウンウォッチングを実施した。
- ③ふりかえり会では、同地域、近隣地域の学生同士でグループワークにより共有を行った後、ワールドカフェ方式で全体共有を図った。

○授業全体の学びの分かれ合い

グループワークにより、自身がこの授業で学んだことを各自でふりかえった後、グループ内で共有。共通することなどを分かれ合った後、グループごとに発表を行った。



ソーシャルワーク実習

【担当教員】川島恵美、李善惠

【巡回担当教員】

石川久展、伊藤安佐子、井上みえ、風間朋子、川島恵美、小西加保留、重松貴美江、高橋味央、辻田奈保子、中島尚美、西田麻由香、原弘輝、平尾昌也、福田孝子、藤井博志、藤田譲、前川敦、前窪郁、前橋信和、李善惠、渡邊健

【授業内容】

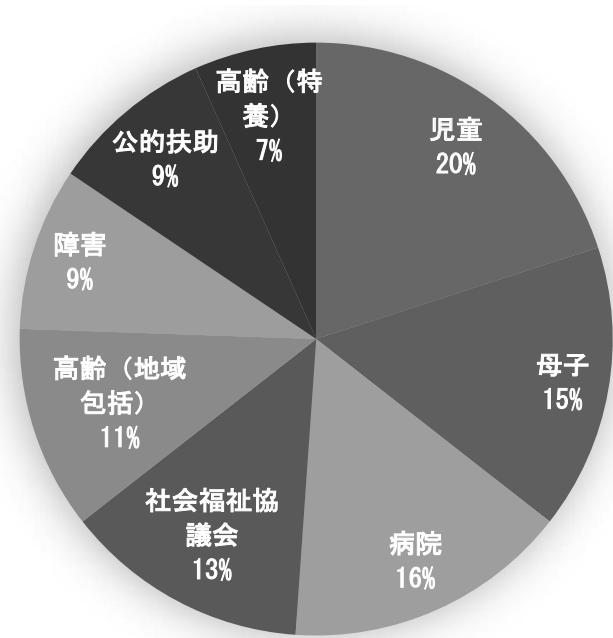
社会福祉士を目指す学生を対象に、厚生労働省指定の実習施設において 180 時間以上の実習を行う。現場実習を通して社会福祉専門職に必要な職業倫理、専門知識、専門援助技術、関連知識を学び、対象者理解および援助技法の適応を試みる。

【方法】

実習先施設／機関は福祉事務所、児童相談所、児童養護施設、児童心理治療施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、母子生活支援施設、婦人保護施設、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、社会福祉協議会、病院等で、原則として夏期休暇期間中に集中で行うが、場合によっては分散・通年で行う。実習に先立ち、担当者によるオリエンテーションを行うとともに、実習事前訪問、実習期間中の巡回、帰校指導など定期的にスーパービジョンを行う。

【2018 年度領域別実習配属人数】

児童	9 人
母子	7 人
病院	7 人
社会福祉協議会	6 人
高齢者（地域包括）	5 人
障害児・者	4 人
公的扶助	4 人
高齢者（特養）	3 人
実習生合計	45 人



【ソーシャルワーク実習の流れ】

1. 実習事前指導

児童、母子、高齢（高齢者施設・地域包括支援センター）、障害、公的扶助（福祉事務所、救護施設）社協、医療領域にわかれ、法制度や施設・機関の沿革、地域特性、利用者理解、支援や援助の方法について学ぶ。また、実習巡回担当者による個別指導で、個人票や実習計画書を作成する。



2. 実習事前訪問

実習が始まる約1ヶ月前に巡回担当教員とともに実習先を訪問する。実習指導者から実習オリエンテーションを受け、具体的な実習目標、実習計画について打ち合わせを行う。



3. 現場実習

職場実習、職種実習、ソーシャルワーク実習という三つのプロセスとその学びから構成されている。

職場実習…分野、施設、職場に関する学び

職種実習…社会福祉士が担当している職種や担当業務の学び

ソーシャルワーク実習…ソーシャルワーク実践についての学び



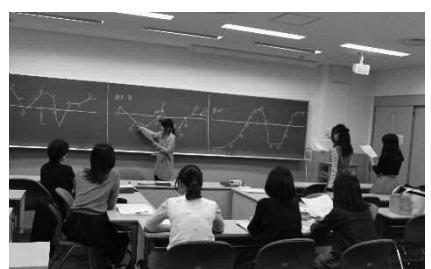
4. スーパービジョン

おおむね1週間に1度、担当教員による巡回指導、帰校日指導を受け、実習の達成状況についてのスーパービジョンを受ける。同じ領域で実習している複数の実習生とともにグループスーパービジョンが行われる場合もある。



5. 実習事後指導

巡回担当教員とともに実習の評価、ふりかえりとまとめを行う。事後学習の一環として実習報告会を行う。その後、さらに領域別で報告会を行う場合もある。



福祉社会フィールドワーク

【担当教員】 安田美予子・川島恵美・李善恵・平尾昌也・藤井博志・陳礼美・白波瀬達也

【授業目的・到達目標】

さまざまなテーマに基づき、現場で、体験型のフィールドワークを行うことを通して、将来、市民や非専門職の立場で、職場、家庭、地域社会、国際社会などにおいてそれぞれが抱える課題に対して社会福祉の視点から関わり、社会全体の福祉実現に将来に渡って貢献していくことを目的としている。

【授業内容】

本フィールドワークでは、プログラムにより異なるがその内容は、大別して以下の3つの型（プログラム）があり、本年度はそのうち（1）、（2）を実施した。

（1）「体験学習」重視型～通い型プログラム～

・・・都市部で地域に根付いたNPO等へ通いながら見学、体験。当該地域の資源分析やリサーチを通じた資源、プログラムの開発（提案）を行う。

（2）「スタディツアーより」～夏季集中型プログラム～

・・・過疎集落や離島、海外でのスタディツアーや行う。

（3）「リサーチ」重視型～見学・ヒアリング型プログラム～

・・・制度・政策により排除を受けてきた歴史を持つ地などを訪れリサーチを実施する。

※体験日数としては、プログラムの内容によるところも大きいが、指定の実習先にて、おむね5日程度（30～60時間程度）のフィールドワークを行った。

フィールドワーク先	履修者
社会福祉法人 神戸真生塾 子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家	1
一般社団法人 new-look	1
一般社団法人 里馬	1
毎日新聞社	2
萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社	2
NPO 法人 にしほらたんぽぽハウス	2
NPO 法人 いけま福祉支援センター	6
NPO 法人 神戸定住外国人支援センター	1

NPO 法人 コリア NGO センター	1
NPO 法人 うり・そだん	1
認定 NPO 法人 CPAO	1
ヘンリー・ストリート	1

精神保健福祉援助実習

【担当教員】

風間朋子、唐津亜矢子

【授業の目的】

精神保健福祉士を目指す学生を対象に、厚生労働省指定の実習施設において配属実習を行う。医療機関（精神科病院、精神科クリニック）1箇所、行政機関（精神保健福祉センター、保健所）、または障害者総合支援法における障害福祉サービス事業、相談支援事業や地域活動支援センター事業を実施する事業所で主に精神障害者が利用する機関に1箇所、あわせて2箇所で集中、又は分散形式で実習する（トータルで210時間以上、ただし社会福祉士実習の単位取得済の場合は180時間以上）。

医療から行政、福祉サービスまでの幅広い精神保健福祉の現場において、各機関の役割、患者・利用者の置かれている状況や生活ニーズ、他機関・地域社会との関係、精神保健福祉士の役割と連携についてその実際を学び取り、個別支援計画策定を行う。更にそれらを事後学習によって熟成させていくことにより、自ら目指す精神保健福祉士のあり方や精神保健福祉が抱えている課題に対する何らかの方向性を見いだせるようになることを目標にする。

【事前学習、配属実習、事後学習の内容】

春学期には事前学習として「精神保健福祉実習指導Ⅱ」及び「精神保健福祉援助演習Ⅰ」の授業が実施される。授業内容は、各自の精神障害・精神病観、自己覚知の確認から始め、精神医学、精神科薬理学、障害者基本法・障害者総合支援法をはじめとした各種障害者福祉法制度・精神保健福祉法・精神保健福祉士法、生活保護法、国民年金法など関連する社会福祉法制度、コミュニケーション技術、アセスメント、グループワーク、コミュニティワークなどの援助技術や社会学、心理学などの関連知識であり、いずれともにピア方式で学ぶ。

以上の学習の成果を反映させて、個別に実習計画を策定する。配属実習では、配属先P.S.Wの指導・スーパービジョンを受けながら、個別支援計画策定を含めた実習計画の達成を目指してプログラムを遂行していく。実習計画は必要に応じて修正、変更を行う。

秋学期には事後学習として「精神保健福祉実習指導Ⅲ」及び「精神保健福祉援助演習Ⅱ」の授業が実施される。実習前後の授業と実習を通して精神科ソーシャルワーカーとして必要な価値、知識そして技術の基礎を獲得する。

配属実習終了後に、事後学習の一環として、実習計画の達成度報告（実習報告会）、振り返り、デブリーフィング、実践教育報告会、および「実習のまとめ」の作成を行う。

	春学期	秋学期
(金) IV 時限	精神保健福祉実習指導Ⅱ	精神保健福祉実習指導Ⅲ
(金) V 時限	精神保健福祉援助演習Ⅰ	精神保健福祉援助演習Ⅱ

【精神保健福祉援助実習報告会】

12月15日（土）の午前に、実習先の指導者の方々と教員、下級生を前に、2名の実習生が報告を行った。下級生からの質問や実習先の指導者の方々からもコメントをいただき、実習での学びの総括の場となった。



【実践教育報告会】

12月15日（土）の午後、ポスターセッション方式で実習の報告を行った。他学科や他学年の学生から質問を受けることで、より分かりやすく説明する難しさや新たな視点に気付く場となった。



【事後学習後の成果物（「実習のまとめ」）】

「2018年度精神保健福祉援助実習のまとめ」の構成・編集は実習生が行った。
「実習を通して学んだこと・考えさせられたこと、実習後の私」のページや実習報告会の様子もまとめ、1年間の学びの成果を形にした。

ソーシャルワーク・インターンシップ

【担当教員】大和三重、前橋信和、松岡克尚

【授業内容】

3年次のソーシャルワーク実習を経験した学生が、4年次に、より専門性が高く、社会福祉士の資格に捉われない、児童福祉、地域福祉、障害者福祉、高齢者福祉、公的機関、NPO、海外NGOなど様々な分野での実習を行うことができる科目である。将来専門職を目指す学生が実習先のスーパーバイザーのもとで実務につき、専門職に必要な教育・訓練を受けることを目的とする。

通年実習の形式をとり、原則として週1日実習を行う。ただし海外でのインターンシップ等、場合によっては夏休み集中で行うこともある。なお、実習中は担当教員によるスーパービジョンを定期的に受け、進捗状況を確認する。

【スケジュール】

3年次の秋学期：個別面接・配属・個人票/実習計画書 指導・作成

春学期：オリエンテーション、事前訪問、実習開始（4月～）、教員によるスーパービジョン・巡回訪問

秋学期：中間報告会、教員によるスーパービジョン、領域別報告会・ポスターセッションの準備、領域別報告会・ポスターセッション報告、最終レポート作成、まとめ冊子の作成

【ソーシャルワーク・インターンシップ報告会・実践教育報告会の様子】



医療ソーシャルワーク・インターンシップ

【担当教員】徳山磨貴

【授業内容】

医療ソーシャルワーカーを目指す学生に対して 240 時間以上の医療福祉実習を行うと共に、実習内容と関連させ、実習先と連携を取りながら、医療ソーシャルワーカーに求められる価値倫理、知識、技術の向上を目指す。また実習をより効果的に行うために、知識技術面や精神的サポートを行うことを目的とする。

＜授業内容＞

3月

- オリエンテーション
- 実習計画書・個人票作成開始

春学期

4月

- 春学期のスケジュール決め
- 実習計画書・個人票指導
- 勝手訪問、勝手訪問報告

5・6・7月

- 実習先事前訪問
- 病院機能、診療報酬制度、医療費助成や社会資源等に関する学習
- 実習内容報告によるディスカッション・指導

8月

- 帰校日指導
- 巡回訪問指導

秋学期

9月

- 秋学期のスケジュール決め、授業内で深めたいテーマの確認
- 実習中間報告会の準備

10・11月

- 中間報告会
- 実習の経験に基づいたテーマ別課題についてのディスカッション
(多職種連携、ソーシャルワークの価値と倫理、面接技法、自己覚知、援助プロセス、アセスメントについて等)

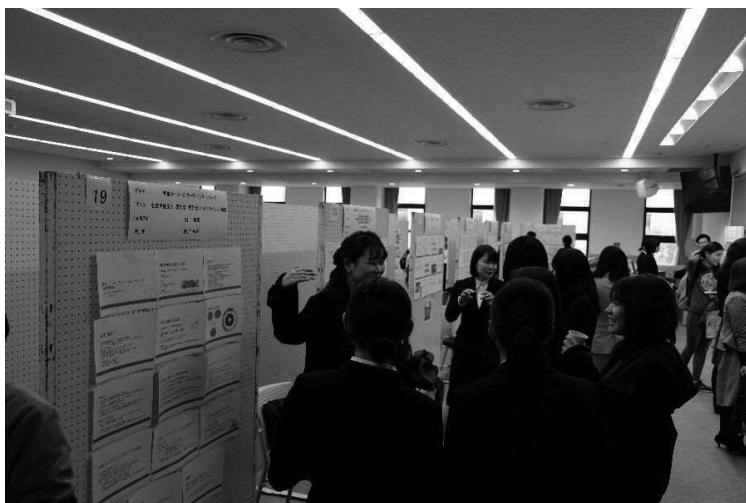
12月

- 報告会準備、リハーサル
- 報告会・パネル発表

<領域別報告会の様子>



<実践教育報告会の様子>



学校ソーシャルワーク実習

【担当教員】前橋信和、大塚美和子、西野緑

【授業の目的】

学校現場や関連機関での実習を通して、スクールソーシャルワーク実践に必要とされる知識と技術を習得し、教育現場で起きている様々な問題に対応できる実践力を養うことを目的としている。特に、教職員との連携や具体的な実践方法について理解を深め、スクールソーシャルワーカーとして求められる資質や役割を学ぶ。

なお、以下の内容について、実習指導者（スクールソーシャルワーカー）による指導、教育委員会や学校の指導を受ける。また、実習指導担当教員は、巡回指導を通して、実習指導者と連絡を取り合い、学生の個別指導を行う。

【授業内容】

1. 実習の導入期

- ア. 人間関係の構築
- イ. 実習目的の明確化
- ウ. 学校、教育委員会などの基本的な理解を深める。学校という場を実感する。

2. 実習の展開期

- ア. 援助関係の形成（ミクロレベル）
- イ. ケース会議の実際などを学ぶ（メゾレベル）
- ウ. 関係機関を含めたチームアプローチの方法を学ぶ（メゾレベル）
- エ. 市町村の子ども相談体制とのつながりを学ぶ（マクロレベル）

3. 実習の終結期

- ア. 学生自身が関わりを持った事例について整理し、発表を行う。
- イ. 実習指導者からのフィードバックをもらい、実践の自己評価を行う。

【学校ソーシャルワーク実習に関する科目】

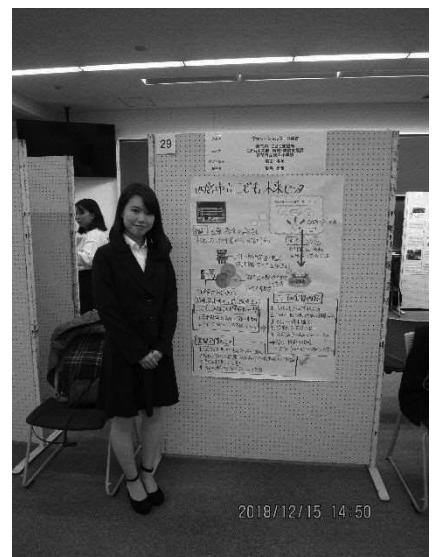
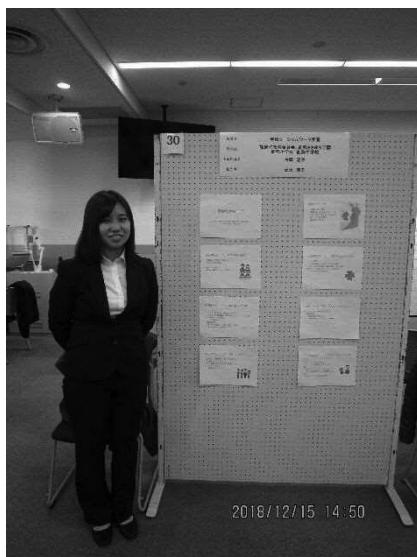
○学校ソーシャルワーク実習指導 (担当: 西野緑)

実習機関である教育現場での実習に向けて、学校や学校組織についての理解を深め、スクールソーシャルワーカーとして求められる役割を果たすための資質とスキルを習得することを目的とする。

【学校ソーシャルワーク実習報告会の様子】



【実践教育報告会の様子】



大学院アドバンスト・フィールドワーク

【担当教員】武田丈、前橋信和

【授業内容】

人間福祉研究科前期において、人間福祉に関わる理論と実践を体験として連関させ、現代社会における人間の幸福（well-being）の意味の探求と人と環境の相互作用におけるさまざまな問題を抱える人々への支援を計画、立案、実践できる人材育成に必要な研鑽を積むことを目的とする。

具体的には、社会福祉機関、スポーツ科学関連施設、医療機関、NPO/NGO、公的機関、教育機関などで実習、及び研究テーマに即した現地調査やフィールドワークを約300時間行う。

【スケジュール】

春学期前半は、実習計画書作成と実習受け入れ先の調整と依頼、そして実習内容の確定にあてられる。春学期後半及び秋学期は、計画書に基づき、実習及びフィールドワークが実施される。担当教員と定期的なミーティングを実施し、実習及びフィールドワークの経過の確認と必要に応じた計画変更が行われる。

また、12月の実践教育報告会にてポスター発表を行うほか、最終報告書の提出が求められる。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

【担当教員】

石川久展、伊藤安佐子、井上みえ、風間朋子、川島恵美、小西加保留、重松貴美江、高橋味央、辻田奈保子、中島尚美、西田麻由香、原弘輝、平尾昌也、福田孝子、藤井博志、藤田譲、前川敦、前窪郁、前橋信和、李善惠、渡邊健

【授業目的】

180 時間のソーシャルワーク実習に向けて具体的な学習、態度、心身の健康について準備を行い、実りある実習が行えるようにすることを目的とする。尚、ソーシャルワーク演習Ⅳ(領域別実習準備学習のクラス)と内容的に関連があるため一体のものとして行う。

【到達目標】

- 1) 実習巡回担当教員との信頼関係を作る
- 2) 個人票、実習計画書を作成する
- 3) 実習記録の作成について学ぶ
- 4) 実習に必要なマナー、社会的行動について学ぶ
- 5) その他、実習に必要とされる準備を行う

【2018 年度 授業内容】

回	日時	4限 実習指導Ⅱ	5限 演習Ⅳ
1	4/12	領域合同 <実習の心得、実習指導Ⅰレポートを基にしたアクションプラン作成>	
2	4/19	領域合同 <実習リエンテーション(手引きの解説)>	1回目
3	4/26	領域合同 <実習計画書の書き方>	2回目
4	5/3	個人票・計画書	3回目
5	5/10	個人票・計画書	4回目
6	5/17	個人票・計画書	5回目
7	5/24	領域合同 <記録の書き方(主観的・客観的記録について)>	
8	5/31	個人票・計画書	6回目
9	6/7	個人票・計画書	7回目
10	6/14	個人票・計画書	8回目
11	6/21	領域合同 <接遇・マナー講座>	9回目
12	6/28	個別指導	10回目
13	7/5	個別指導	11回目
14	7/12	領域合同 <実習 kick off>	

ソーシャルワーク演習Ⅳ

【担当教員】 下表参照

【授業目的】

現場実習に向けて、基礎的な知識や技術を習得することを基本として、さらに実践的な姿勢・考え方を演習というスタイルで学んでいくことを目的とする。実習指導Ⅱと関連性・つながりももって、学びを深めていく。

【到達目標】

本演習は実習の配属先を「領域別に分けたクラス構成」により、それぞれの現場に特化した内容で、実習を充実したものとするために事前準備としての演習を行う。

1. ソーシャルワーク実習の意義を理解する。
2. 各領域における必要な技術・知識を習得する。
3. 福祉に関する総合的かつ包括的な「相談援助職としての自覚」を促し、「専門職として求められる資質、技能、倫理」を身につける。
4. 実習を通じて「自分に求められる課題」を把握し、総合的に対応できる能力を身につける。
5. 演習における事例検討から、実践的な対応力・判断力、さらに包括的・全般的な視点を学び、身に着ける。

	担当教員	授業目的・目標	授業内容
児童領域	高橋味央	<ul style="list-style-type: none">○ソーシャルワーク実習の目的と意義を理解する○実習先の機関・施設について、その機能と役割を学ぶ○児童領域の現場実習に必要とされる知識・技術を体得する○児童領域の現場実習に特化したマナー やソーシャルスキル等を学ぶ○実習の心構えや積極的な学習姿勢を養う	<ul style="list-style-type: none">●児童領域(児童相談所、児童福祉施設等) の概要●児童領域のソーシャルワークの実際●子どもと家庭への支援(児童虐待、愛着理論、発達理論、多職種連携とネットワークについて)●事例検討やレポート内容に基づくグループワーク●実習計画書についてのプレゼンテーション
母子領域	中島尚美	<ul style="list-style-type: none">○ソーシャルワーク実習の意義を理解する○社会福祉専門職としての価値・倫理・態度を学ぶ○主体的な学習行動と積極性を養う○実習を通じて「自分に求められる課題」を把握し、総合的に対応できる能力を身につける○母子領域における支援に必要な知識・技術を具体的かつ実際的に理解し体得する○利用者理解の視点を養う○アセスメント力をつける	<ul style="list-style-type: none">●社会的養護法体系、ひとり親施策の概要理解●母子生活支援施設における支援の実際●実習先に関する基礎知識をまとめて理解し、疑問点の抽出●実習先施設について下見を行い、地域探索も含めて具体的に捉え、レポート作成・発表●観察と記録の方法の学習●子どもの育ちの理解●子育て疑似体験プログラムを通しての「子育て」の理解と利用者が抱える課題の理解●ケーススタディ

高齢領域 (施設)	永井文乃	<p>○実習において、価値・知識・援助技術といった多岐にわたる学習を効果的に行うための準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現場実習手続きの基礎知識、マニュアルの把握 ●専門知識(①介護保険制度と各機関・施設・在宅サービスの位置づけ、②高齢者の疾患・障害の理解、認知症と対応、リハビリーションの意義) ●直接援助技術(①アセスメントの視点、介護サービス計画の作成、②コミュニケーション技術) ●実習における態度(実習指導者・スタッフとの関わりかた) ●現場見学・演習、SST、記録の書き方
高齢領域 (包括)	渡邊健	<p>○ソーシャルワーク実習の意義を理解する ○実習において必要な技術・知識を習得する ○福祉に関する総合的かつ包括的な「相談援助職としての自覚」を促し、「専門職として求められる資質、技能、倫理」を身につける ○実習を通じて「自分に求められる課題」を把握し、総合的に対応できる能力を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護保険制度:全体像、地域包括支援センター ●高齢者の理解 認知症について ●高齢者を取り巻く環境の理解:家族、近隣、地域 ●総合相談支援:相談の受理～面接～援助関係の構築 ●実習計画書の個別指導、事前訪問の打ち合わせ ●介護予防マネジメント ●ケアマネジメント支援:地域における連携、協働の体制づくり ●権利擁護と成年後見制度 ●機関見学・実践紹介と実習生に求める視点 ●実習記録の意義と書き方
障害領域	井上みえ	<p>○障害領域の実習に直結する知識・技術を体得する ○実習に必要とされる価値・倫理・態度を学ぶ ○感性を磨き「体とこころ」を動かせるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障害領域オリエンテーションとマナー講座 ●身体障害者・児の理解と支援 ●知的障害者・児の理解と支援 ●自閉症スペクトラムの理解と支援 ●発達障害および精神障害者・児の理解と支援 ●実習計画書の作成と添削指導 ●1日体験の報告と振り返り ●障害福祉の制度をライフワークを通して学ぶ ●障害のある方を招いて ●先輩の話
公的扶助領域	前嶋弘	<p>○ソーシャルワーク実習の意義について理解する ○相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する ○社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する ○具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する ○公的扶助領域の施策、事業、組織、行財政に関する現状と課題を理解する ○自分自身の実習テーマを見出し、それを織り込んだ実習計画書を作成する ○実習先で求められるマナーや配慮を理解し適切な振舞いができるようになる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ソーシャルワーク実習の意義 ●実習分野と利用者、関係機関、団体、地域社会等に関する基本的理解 ●実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ●福祉事務所の組織や仕事に関する調査・発表 ●現場体験学習および見学実習 ●実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 ●個人情報保護法の理解 ●「実習日誌」への記録内容および記録方法に関する理解 ●実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との協議を踏まえた実習計画の作成に関する理解 ●各自が作成した実習計画書の発表と意見交換 ●ゲストスピーカーによる講義

地域福祉領域	藤井博志	<p>○実習にあたっての基本的な姿勢と技術、記録の書き方等の技術を養う ○地域福祉と関連福祉制度、社会の動向について理解する。 ○社会福祉協議会の歴史・個別支援・地域福祉活動に関する知識を養う ○地域の固有性に根差した実習計画書作成を行う ○地域福祉実践で起こる課題に対して、学習した知識・技術との関連を認識できるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●実習に対する動機づけ ●個人票・実習計画書の書き方 ●地域福祉計画と地域福祉活動計画・事業計画 ●社会福祉協議会がおこなう実践について ●CoWとCSW ●コーディネーションとネットワーキング ●実習計画発表 ●フィールドワーク発表 ●事例検討
医療領域	藤田譲	<p>○現場実習に必要な心構え、ソーシャルスキル、基本的知識を身につける ○医療機関での実習を行うために必要な知識と技術、マナーを身につける ○医療制度および病院機能の理解、医療保険制度をレビューし、実習で求められるソーシャルスキル、観察の仕方、記録の書き方についての練習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●医療の仕組みと実習施設の理解 ●実習計画書作成 ●勝手訪問報告会 ●医療の現状とMSWの思い ●医療ソーシャルワークの実際 ●政策動向と医療ソーシャルワークの関係 ●医療のあり方とソーシャルワークの価値 ●実習日誌の書き方

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

【担当教員】

石川久展、伊藤安佐子、井上みえ、風間朋子、川島恵美、小西加保留、重松貴美江、高橋味央、辻田奈保子、中島尚美、西田麻由香、原弘輝、平尾昌也、福田孝子、藤井博志、藤田譲、前川敦、前窪郁、前橋信和、李善惠、渡邊健

【授業内容】

ソーシャルワーク実習において体験した内容のふりかえりとまとめを行い、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を養うことを目的とする。授業では、①実習振り返り、②実習レポート作成、③次年度履修予定学生に向けたソーシャルワーク実習報告会、④領域別報告会、⑤実践教育報告会でのポスター発表を実施した。以下は、その主な概要である。

【実習振り返り】

実習振り返りでは、①実習アンケートや評価票を通じての自己評価を行う事、②実習中のモチベーションを図るシートの作成を行う事、以上2点を通じて、実習レポートの作成およびソーシャルワーク実習報告会や領域別報告会で報告するための整理を行った。また、報告会に向けてのプレゼンテーション指導も実施した。

【ソーシャルワーク実習報告会】　日時：2018年10月27日（土）場所：G号館各教室

ソーシャルワーク実習報告会は、次年度ソーシャルワーク実習履修を希望している学生に対して、実習生自身の具体的な実習体験を報告する場である。実習を終えた学生にとっては、フィードバックの機会となり、次年度履修予定の学生にとっては、関心のある領域を選択し、学習意欲を高めるためのステップであるといえる。

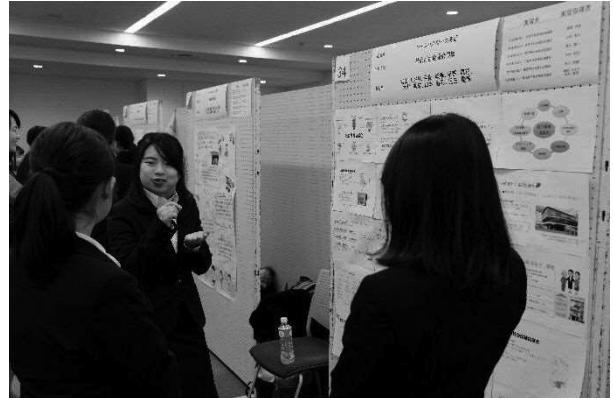
また、報告会終了後は、実習生と次年度履修予定学生との懇談会も実施した。



【実践教育報告会】　日時：2018年12月15日（土）場所：G号館 201、202教室

実践教育報告会は、社会福祉学科、社会起業学科、人間科学科の3学科の学生が合同でそれぞれの実践教育を報告する場、また学びの交流の場として開催している。

今年度よりSW実習履修生も実践教育報告会に参加し、領域毎にポスター発表を行った。報告会終了後は、他の実践教育の報告を通して感じたことや気付いたことを共有、意見交換を行った。



ソーシャルワーク演習V

【担当教員】

川島恵美、李善惠、橋高通泰

【授業目的】

本演習の目的は、ソーシャルワーク実習で学んだ具体的な対人援助の場面や個別支援計画の内容を持ち寄り、ジェネラリスト・ソーシャルワーク（ソーシャルワークの基礎基盤）の視点と意義を学ぶことである。実習を終えた各領域の学生で構成される演習クラスで、各自が抱える・考察すべき実習の内容・課題・疑問点を報告・共有する。さらに一領域の事例を各領域の観点から再検討するプロセスを通じて、ジェネラリスト・ソーシャルワークの本質を探求する。学びを深めるための留意点は「第一に、メゾ・マクロ視点（地域社会・施設機関・法人・法制度の存在と役割に焦点をあてる等）とミクロの視点（対人援助・人間理解に必要とされる価値と倫理・知識・技術に焦点をあてる等）に注視すること。第二に、現場実習での実体験に基づく学びを捉えなおし、ソーシャルワーク実践を広く・深く考察すること。第三に、クラス報告をするにあたり、現場実習・実践の情報を十分に再収集（アセスメント）・再確認し、現実的視点から再検討すること。」である。

【授業内容】

- ジェネラリスト・ソーシャルワーク ○社会福祉士の基礎基盤
- 実習事例の活用と検討 ○ソーシャルワーク実習体験のふりかえりと総括

【学びの方法】

- 概念を理解する学習 ○体験を振り返る学習 ○グループワーク学習

【スケジュール】（抜粋）

- 第1回：オリエンテーション1 「演習の学びの姿勢・評価方法」、「演習での学びとそのスタイルとは何か」、実習のふりかえりとワークシートI記入作成
- 第2回：オリエンテーション2 「ジェネラリスト・ソーシャルワークとは何か」
- 第3回：クラスオリエンテーション、ワークシートII記入作成
- 第4回～第9回：各事例について討議及び検討
- 第10回：在日外国人支援を考える～総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践から～
- 第11回：ゲストスピーチ（在日外国人の視点からみた支援の現状や課題）
- 第12回：グループワークプレゼンテーションの準備 在日外国人のもつニーズや課題に対応するプログラムを考える
- 第13回～第14回：グループワークのプレゼンテーション まとめと振り返り

福祉社会フィールドワーク指導

【担当教員】 安田美予子・川島恵美・李善惠・平尾昌也・藤井博志・陳礼美・白波瀬達也

【授業目的・到達目標】

さまざまなテーマに基づき、現場で、体験型のフィールドワークを行うことを通して、将来、市民や非専門職の立場で、職場、家庭、地域社会、国際社会などにおいてそれが抱える課題に対して社会福祉の視点から関わり、社会全体の福祉実現に将来に渡って貢献していくことを目的としている。

【授業内容】

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 課題レポートの発表 |
| 第3回 | フィールドワークとは何か～全体概要～ |
| 第4回 | フィールドワークとは何か～問い合わせの立て方～ |
| 第5回 | ソーシャルワークの価値・倫理 |
| 第6回 | フィールドワーク先でのマナー、中間発表会の進め方 |
| 第7回～第9回 | 中間発表会 準備 |
| 第10回～第12回 | フィールドワーク計画の見直し、及び最終発表会に向けての準備 |
| 第13回～第14回 | 最終発表会 |

10月27日(土) 福祉社会フィールドワーク報告会

12月15日(土) 人間福祉学部 実践教育報告会



ソーシャルワーク論B

【担当教員】平尾昌也、李 善惠

【授業内容】

社会福祉を学び始める学生（1年生）が、社会福祉における分野・職種・専門職・資格、援助・実践など、社会福祉に関する基礎的内容と実際を広く学び、その後（2年生以降）の専門的な理論と実践の学びにつながる導入教育を講義目的とする。専門職であるゲスト講師から、施設・組織の運営管理の実際、専門職の業務・実践の実際、利用者や家族の生活とニーズなどを具体的に伺うことで、社会福祉・ソーシャルワークについてより現実的・具体的に理解できるようになる。今年度も春学期を行い、11名のゲストスピーカーにご講義いただいた。

【2018年度スケジュール】

回	月 日	テーマおよび内容	主担当の教員
1	4月 10日	オリエンテーション	平尾昌也、李 善惠
2	4月 17日	高落 敬子 氏	奈良市認知症初期集中支援チーム
3	4月 24日	倉田 めば 氏	NPO 法人大阪ダルクディレクター/Freedom 代表
4	5月 1日	原田 徹 氏	社会福祉法人ライフサポート協会 住吉総合福祉センター
5	5月 8日	濱田 晴江 氏	医療法人協和会 地域医療連携室本部
6	5月 15日	廣瀬 みどり 氏	社会福祉法人みおつくし福祉会 母子生活支援施設 東さくら園
7	5月 22日	丸谷 美紀 氏	KG ソーシャルワーク研究会
8	5月 29日	中間ふりかえり	李 善惠
9	6月 5日	茂籠 知美 氏	社会福祉法人 池田市社会福祉協議会
10	6月 12日	幸重 忠孝 氏	幸重社会福祉士事務所
11	6月 19日	泉 佳孝 氏	近畿地方更生保護委員会
12	6月 26日	平田 大地 氏	神戸少年の町
13	7月 3日	宮本 晃子 氏	尼崎市役所 健康福祉局 福祉事務所
14	7月 10日	全体総括	李 善惠

ソーシャルワーク論 F

【担当教員】川島恵美、李 善惠

【授業内容】

ソーシャルワーク実習を終了した者を主な対象にして、社会福祉及び保健・医療機関の機関機能、それぞれの利用者の支援内容、それと関連した社会資源活用・調整・開発、および連携・ネットワーキングを取り上げて、事例分析を行う。これらを通してソーシャルワーク実習で得られた知識の再確認と一層深めることを目的とする。具体的には社会福祉各法・関係法に基づく社会福祉施設・機関、保健・医療機関等の各領域から実践経験のある講師をお招きし、各2回ずつ、それぞれの実践現場における相談援助・支援の実際について取り上げ、その事例分析を行う。

【2018年度スケジュール】

回	月 日	領 域	指導担当
1	9月26日	オリエンテーション	李 善 惠
2	10月3日	福祉行政	梶 原 秀 晃
3	10月10日	福祉行政	梶 原 秀 晃
4	10月17日	高齢者福祉	西 野 佳 名 子
5	10月24日	高齢者福祉	西 野 佳 名 子
6	10月31日	児童福祉	丸 谷 美 紀
7	11月7日	児童福祉	丸 谷 美 紀
8	11月14日	障害者福祉	古 井 克 憲
9	11月21日	障害者福祉	古 井 克 憲
10	11月28日	精神保健福祉	山 野 仁 美
11	12月5日	精神保健福祉	山 野 仁 美
12	12月12日	医療福祉	小 西 加 保 留
13	12月19日	医療福祉	小 西 加 保 留
14	1月9日	まとめ・振り返り	李 善 惠

◆ 社会起業学科◆

<社会起業学科>

実践教育プログラムの流れ * 2012 年度入学生～

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
春学期	秋学期	春学期	秋学期



社会起業フィールドワーク（国内）

【担当教員】田原慎介

【授業の目的】

この授業では、街に出て、社会的な課題に直面している当事者や課題解決のために取り組んでいる人々にお会いして、社会的課題の現実と取り組む姿勢を学ぶことが第一の目的である。第二の目的は、人と会い、質問しながらお話を聞き、それをまとめて整理し、他人に伝える技術を獲得することである。

【授業の内容】

1. 事前調査及び報告

団体の設立経緯や組織、活動の内容をはじめ、その団体が取り組む社会的課題やその課題が生まれる背景、その団体以外にも同じような社会的課題にどのような取り組みがなされているのかなどについて事前に調べたうえで、報告を行った。

2. フィールドワーク

事前調査内容に基づき、下記団体の事務所及びフィールドを訪れ、取材を実施した。

3. 事後報告

事前調査、フィールドワークの内容を基に PPT を作成し、報告を行った。

<フィールドワーク先>

日程	FW 先	テーマ
5月 27 日 (日)	ワークメイト	在日外国人支援
6月 2 日 (土)	株式会社 LITALICO	障害者就労支援
6月 9 日 (土)	NPO 法人 暮らしづくりネットワーク北芝	まちづくり、子ども支援
6月 10 日 (日)	NPO 法人 山科醍醐こどものひろば	こどもの居場所づくり

<フィールドワーク特別講義>

講演	訪問先	テーマ・課題
6月 26 日 (火)	ANA ウィングフェローズ・ヴイ王子株式会社	企業における障害者支援

<フィールドワークの様子>



社会起業フィールドワーク（海外）

【担当教員】今井千尋

【授業の目的】

1. タイの社会問題や社会的企業の活動を理解し、フィールドワークの概念と実践を学ぶ。
2. 現地の大学において、タイの社会問題および解決策についての講義（英語）を受ける。
3. 体験をまとめてグループで発表し、現地の大学生と意見を交換する楽しさを知る。

【授業の内容】

1. 事前 タイの基本情報、報道、社会問題、訪問先について調べて発表する。
講義や訪問先での質問を考える。
2. 現地 体験をまとめて、グループで発表し、現地大学生と意見交換をする。
3. 事後 学科内説明会（2019年7月頃）で、体験を報告する。
実践教育報告会（2019年12月）で、活動報告を行う。

【フィールドワークスケジュール】

本授業は、タイ北部のチェンマイを拠点とし、本学の協定校であるパヤップ大学と連携する。チェンマイの環境問題について講義（英語）を受けるほか、タイの代表的な社会的企業（Royal Agricultural Station Inthanon / Elephant Nature Park）、高齢者福祉センター、孤児院、少数民族が暮らす村等を訪問し、「社会問題とは何か」「どうすれば問題を解決できるのか」を考察する。また、チェンマイ滞在中に得た気づきについてグループでプレゼンテーション（日本語）を行い、パヤップ大学で日本語を専攻するタイ人学生との交流を図る。最終日には、パヤップ大学から本学の学生に修了証が授与される。

日時	訪問先
2/14	大阪発→香港経由→チェンマイ着 パヤップ大学留学生寮到着
2/15	タイ文化紹介・基礎タイ語講座・タイ人学生と懇談・“Mae Kha 運河の概要”（講義1）
2/16	Tai-Lue 村訪問・サタデーマーケット散策
2/17	Elephant Nature Park（社会的企業）視察
2/18	チェンマイ大学構内の貯水池・Samakee Patana 地区・Mae Kha 運河視察（講義2）
2/19	Doi Inthanon National Park 視察・Royal Project Station（社会的企業）訪問
2/20	現地の大学教員との意見交換（講義3）・高齢者福祉センター訪問・旧市街視察
2/21	タイ料理教室・孤児院訪問
2/22	グループ発表（対象：パヤップ大学日本語学科のタイ人学生）・修了証授与式
2/23	Kad Luang 市場視察・パヤップ大学留学生寮出発 チェンマイ発→香港経由
2/24	大阪着

社会起業プラクティス

【担当教員】 春学期：田原慎介、秋学期：不開講

【授業の目的】

過年度「社会起業プラクティス演習」(2017年度秋学期)で作成したプランに基づき、学生が主体的につくったチームで社会的課題の解決に向けた事業を実践し、自己評価し、事業内容を改善していくことを目的として実施した。

修了時点には、社会的課題を解決する事業について実践を通じて得た知見をもとに、社会起業能力を実社会で自由に活用できるレベルまで高めていることを目標とした。

【授業内容】

*実施状況に応じて個別対応

第1回 ガイダンス

第2回 社会起業アイデアの共有

第3～5回 社会起業プランの作成・報告

第6～8回 社会起業プラン実践の準備

第9～12回 実践

第13回 実践のフィードバック

第14回 実践のフィードバック、授業のまとめ

※2018年12月15日（土）の人間福祉学部実践教育報告会での報告（ポスター発表）

【実施の様子】



社会起業インターンシップ（国内）

【担当教員】 澤田有希子、村井琢哉

【授業目的】

この講義では、2年次のインターンシップ演習における事前学習と分野選択を踏まえ、国内の社会的企業、NPO、福祉・介護関係機関及び団体、公的機関、民間企業などにおいてインターンシップを行うことを目的とする。併せて、事前訪問、インターンシップ計画の作成、事前学習、事前学習報告会、事後学習、インターンシップ報告書の作成、インターンシップ報告会の開催などを行う。

【スケジュール】

春学期

- ・インターンシップに関する事前学習
- ・事前訪問
- ・インターンシップ計画の作成
- ・事前学習報告会

夏期休暇期間

- ・インターンシップ（2名 *インターンシップ先については巻末参照）
- ・教員によるスーパービジョン

秋学期

- ・インターンシップに関する事後学習
- ・インターンシップ報告書の作成
- ・インターンシップ報告会
- ・「2018年度人間福祉学部実践教育報告会」での報告（ポスターセッション）



社会起業インターンシップ（海外）

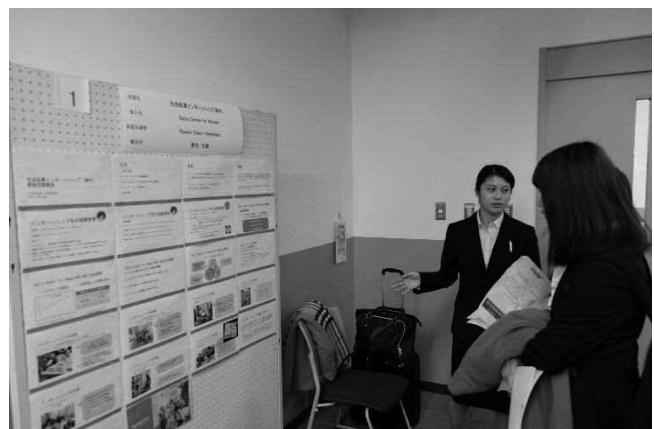
【担当教員】武田丈

【学習目的と目標】

この科目は2年次の海外インターンシップ演習及び、事前学習を踏まえて、夏季休暇期間に海外のソーシャルサービス関連の専門機関やNGOにおいてインターンシップを行う科目である。今年度は2名の学生が履修し、フィリピンのバティス女性センターでインターンシップを行った。

【授業内容】

- | | |
|--------|--|
| 春学期 | 事前学習、プレゼンテーション、準備など |
| 夏季休暇期間 | 6週間の海外でのインターンシップ |
| 秋学期 | 振り返り、報告書作成、インターンシップ報告会、ポスターセッションの準備、「2018年度人間福祉学部実践教育報告会」での報告（ポスターセッション）など |



社会起業アドバンスト・インターンシップ

【担当教員】 大熊省三、澤田有希子

【授業目的】

この授業は、学生自身がこれまでの大学生活の中で学んで来たこと、現場で経験してきたことを踏まえて、4年次の卒業研究のテーマに関連するフィールドでインターンシップを行うことを通して、現場における実践経験と卒業研究の内容を深めていくことを目的とした科目である。NPO や NGO、社会的企業、地域活動団体などにおけるインターンシップを通して、自分自身が立てた研究テーマを追求することが目標となる。

今年度は 7 名の学生が履修し、西宮市商店市場連盟「甲子園口商店街」(6名) と芦屋市の市民団体「こくさいひろば芦屋」(1名) でアドバンスト・インターンシップを行った。

【授業内容】

春学期

- ・インターンシップに向けた事前学習
- ・インターンシップ計画作成
- ・事前訪問と計画内容の相談

夏期休暇期間

- ・インターンシップ実践（通年）
- ・教員によるスーパービジョン

秋学期

- ・インターンシップ報告と振り返り
- ・ポスターセッション準備・報告（2018 年度人間福祉学部実践教育報告会）

<日程・インターンシップ先・テーマ>

	インターンシップ先	テーマ
6月～11月 80時間程度	甲子園口商店街	商店街との交流を通して、デジタルブックの企画・制作・プロデュースをする http://digitalbook-jp.com/book/dbooks/c000000021.htm
通年（4月～12月） 120時間程度	こくさいひろば芦屋	フォトボイスプロジェクトを通して、外国をルーツに持つ子どもたちと地域を繋ぐ写真展（芦屋国際交流協会、人間福祉学部）を行い、参加者のエンパワメントを試み、その効果を検証する



◆人間科学科◆

<人間科学科>

実験実習・フィールドワークに関するカリキュラム

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
人間科学実習入門		野外教育実習 A		運動生理学実験実習		スポーツバイオメカニクス実験実習	
人間科学科の基本を理解することを目的とした人間科学入門の実践科目である。人間科学で扱う実践場面を想定し、演習（学内）および実習形式（泊2日の学外合宿）により授業を行います。また、人間の誕生から死までのライフサイクルにおいて、ここどうじ身体がどのように変化していくのか、またその関係の重要性や課題・課題解決の技について、実践を通して学ぶことを目的とします。	毎週の演習とともに、学外での野外実習を通して、組織キャンプとして展開される際の各担当の役割を理解するとともに、グループ単位で展開される活動への支援を、ハーネスキル（ハーネス）とソフトスキル（キャンプ）との両面から習得することを目指す。また、体験学習サイクルによって展開されるキャンプでの様々な活動を実際に体験しながら、その効果と指導法を学びます。	※ 講義科目「運動生理学」または「スポーツバイオメカニクス」の単位修得が先修条件です。（履修中も可）	※ 講義科目「運動生理学実習」または「スポーツバイオメカニクス」の単位修得が先修条件です。（履修中も可）	※ 講義科目「運動生理学実習」または「スポーツバイオメカニクス」の単位修得が先修条件です。（履修中も可）	※ 講義科目「運動生理学実習」または「スポーツバイオメカニクス」の単位修得が先修条件です。（履修中も可）	※ 実習科目「野外教育論」、実習科目「野外教育実習 A」または「野外教育実習 B」の単位修得が先修条件です。	※ 実習科目「野外教育論」、実習科目「野外教育実習 I」の単位修得が先修条件です。
野外教育実習 B (集中講義)		野外教育実習 B		野外教育指導実習 I		野外教育指導実習 II	
冬季アウトドア（スキー・スノーボード）スポーツを通して、大自然の厳冬期における身体運動技術と傷害防止技術の獲得を目指します。生涯にわたるレクリエーション活動のツールとして役立つスノースポーツの技術修得やスノースポーツを通して、スポーツ科学や健康科学について学ぶことを目的と、さらに宿泊授業の特徴である集団生活から人間関係やモラルへの理解を深めることも、目的としています。		※ 講義科目「運動生理学実習」または「スポーツバイオメカニクス」の単位修得が先修条件です。（履修中も可）	※ 講義科目「運動生理学実習」または「スポーツバイオメカニクス」の単位修得が先修条件です。（履修中も可）	※ 講義科目「運動生理学実習」または「スポーツバイオメカニクス」の単位修得が先修条件です。（履修中も可）	※ 講義科目「運動生理学実習」または「スポーツバイオメカニクス」の単位修得が先修条件です。（履修中も可）	※ 実習科目「野外教育実習 I」の単位修得が先修条件です。	※ 実習科目「野外教育実習 II」の単位修得が先修条件です。

人間科学フィールドワーク ※3 年、または 4 年次に履修可能

全体としての人間について、これまで座学を中心におころと身体的の両面から学んできたことを、実際の現場での実習を通して実践的に理解し、深い人間理解をもとに人に関わる支援できる人材を育成することを目的としています。生身の人間との関わりによって、それぞれのライフコースにおける課題や困難に人々はどうに向き合い、生きているのか、こころ・身体両面においてどのような支援ができるのかを学ぶとともに、自らの価値観を問い合わせ、自己への洞察を深めることができます。

人間科学フィールドワーク 入門
※2 年次～4 年次まで履修可能

人間科学の実践に関わっている現場の専門家（ゲストスピーカー）による講義や、実際の人間科学の現場・機関への訪問を予定しています。

先修条件

人間科学フィールドワーク入門

【担当教員】市瀬晶子、井出浩、桜井智恵子、笹塙育子、藤井美和、溝畠潤、山泰幸、辻田奈保子

【授業の目的】

人間科学フィールドワーク入門は、現場での実習をとおした実践教育の場である人間科学フィールドワークの前段階として設置されている。

ホスピス、遺児支援団体、保育園、学校、地域スポーツクラブ、過疎地域といった現場でのフィールドワークを通して、こころと身体の両面から人間、社会とその交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献するという人間科学科での学びを実際の社会の中で学ぶことを目的としている。また、フィールドで学ぶための技法を知り、フィールドワークに必要な課題設定を見つけることも本科目のねらいである。

◎授業スケジュール

	日付	テーマ及び内容
1	9月24日	オリエンテーション
2	10月1日	ゲストスピーカー① 高齢生活研究所 むつき庵 代表 浜田 きよ子氏
3	10月8日	ゲストスピーカー② 大阪聖和保育園 事務局長 森本 宮仁子氏
4	10月15日	講義『フィールドでどう学ぶか?』
5	10月22日	個別指導①(事前学習、フィールドワーク先についての情報収集)
6	10月29日	講義『観察力を高めるプログラム』
7	11月5日	個別指導②(事前学習、フィールドワークプランの作成)
8	11月12日	個別指導③(事前学習、フィールドワークプランの作成)
9	11月19日	フィールドワーク振替日
10	11月26日	事後学習(フィールドワークで分かったことのカテゴリー化、分かち合い)
11	12月3日	事後学習(フィールドワークで学んだことに対する省察、分かち合い)
12	12月10日	発表①
13	12月17日	発表②
14	1月7日	振り返り・まとめ 次年度の人間科学フィールドワーク説明会

◎2018年度のフィールドワーク先

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院 ホスピス希望館	社会福祉法人 聖和共働福祉会 大阪聖和保育園
特定非営利活動法人 長野総合スポーツクラブ	特定非営利活動法人 庄内わんぱくの杜
あおぞら色彩楽園	大阪 YMCA 国際専門学校 高等課程 表現・コミュニケーション学科
あしなが育英会 神戸レインボーハウス	農家民宿（東みよし町）

◎人間科学フィールドワーク入門授業の風景

【 授業の様子 】



【 フィールドワークの様子 】



人間科学フィールドワーク

【担当教員】桜井智恵子、笛場育子、藤井美和、溝畠潤

【授業の目的】

3年間学んできた「こころ」と「身体」についての理論・知識を、実際のフィールドを通して実践的に理解することを目的とする。また、さまざまなライフイベントを経験しながら、全人としての人間理解と学生自らの価値観を問い直す。

具体的には、ホスピス、高齢者施設、障害者施設、福祉や教育現場における子ども支援プログラム、音楽療法や自殺防止のNPO、遺族のセルフヘルプグループ、リハビリ・トレーニング施設、スポーツクラブ、アスレティックトレーナー、過疎地域、民族調査などの現場などにおいてフィールドワークを実施する。

【授業の内容】

領域別に分かれ、春学期には事前学習としてフィールドの関連知識などを学び、秋学期には事後学習として振り返りを中心に行っていく。また、全領域の学生を対象に月に1回程度、合同授業を実施する。今年度は9名の学生がフィールドワークを実施した。(フィールドワーク先については巻末参照)

【人間科学フィールドワーク合同授業の様子】



【実践教育報告会（ポスターセッション）の様子】



【2018年度 合同シラバス・プログラムフロー】

4月12日（木）5限目 合同授業①	人間科学フィールドワークオリエンテーション
担当教員との FW事前学習期間 ①	主なテーマ：フィールドワーク実施に向けての現場理解・プランづくり、など
5月17日（木）5限目 合同授業②	人間科学フィールドワーク経験者による体験談 ゲストスピーカー：2017年度人間科学フィールドワーク生
担当教員との FW事前学習期間 ②	主なテーマ：フィールドワーク実施に向けての専門的知識の再確認、個人票・フィールドワークプランの作成など
5月31日（木）5限目 合同授業③	記録の書き方、フィールドワーク中間報告会の説明 講師：市瀬 晶子 先生 場所：G-323
6月4日（月）	個人票、フィールドワークプラン提出
担当教員との FW事前学習期間 ③	主なテーマ：フィールドワーク中間報告会に向けての準備、など
6月28日 (木)5限目 合同授業④	フィールドワーク中間報告会 (①FW先の概要説明、②FWの進捗状況またはFWプランの発表等)
7月12日（木）5限目 合同授業⑤	人間科学入門 特別講義
7月～10月	フィールドワーク実施
9月27日（木）5限目 合同授業⑥	フィールドワーク中間報告会 (①FW先の概要説明、②FWの進捗状況またはFWプランの発表等) 秋学期オリエンテーション
10月～12月 担当教員との FW事後学習期間	振り返り、報告書作成準備、報告会準備
11月22日、11月29日、 12月6日（木）5限 合同授業⑦、⑧、⑨	最終報告会
12月15日（土）	実践教育報告会
12月～1月	報告書作成時期
1月7日（月）3限	人間科学フィールドワーク 説明会(次年度履修生対象)
1月11日（金）	日誌・レポート、提出

野外教育実習 A

【担当教員】甲斐知彦

【授業内容】

本演習では、実際に野外に出かけ、実習を通して、野外教育現場での指導者としての理論と技術を学んだ。また、到達目標としては、組織キャンプとして展開される際のグループ活動への支援をハードスキルとソフトスキルの両面から習得することとした。なお、本授業の単位と野外教育論の単位を取得することで日本キャンプ協会公認キャンプインストラクターの取得が可能である。

【授業スケジュール】

第1回 オリエンテーション

第2回 体力テスト

第3回 ASE(Action Socialization Experience)コミュニケーションを中心に

第4回 ASE(Action Socialization Experience)トラストを中心に

第5回 キャンプスキルの獲得（ロープワーク）

第6回 キャンプスキルの獲得（テント設営）

第7回 キャンプスキルの獲得（火起こし、野外料理）

第8回 実習のための最終準備

第9回～第14回（集中実習 5月18日(金)夕刻～5月20日(日)夕刻）

於：吉野宮瀧野外学校(奈良県)

実習 1日目夜間 野外炊事

実習 2日目午前1 登山の基本的な技術習得

実習 2日目午前2 ディスカバリーウォーク登山

実習 2日目午後1 ディスカバリーウォーク登山

実習 2日目午後2 テント設営

実習 2日目夜間1 野外炊事

実習 2日目夜間2 テント泊

実習 3日目午前1 テント撤収

実習 3日目午前2 ハートアクティビティ1

実習 3日目午後1 ハートアクティビティ2

実習 3日目午後2 振り返り

第15回 まとめ・授業評価



野外教育実習 B

【担当教員】甲斐知彦・小玉正志

【授業内容】

本演習では、特に冬期の野外教育現場（スノースポーツ）での指導者としての理論と技術を学ぶことを目的に実施した。具体的には、近年、その参加人口が増加しているスノーボードを教材に展開し、到達目標としては、スノーボードの技術習得とともに初心者に対する指導法をハードスキルとソフトスキルの両面から習得することとした。なお、本授業では、全日本スキー連盟スノーボードバッヂテストを実施し、1級2名、2級10名、3級6名の合格者がいる結果となった。

【授業スケジュール】

第1回（履修説明会）（7月10日（火））

第2回（12月8日（土））

実習説明・スノーボード理論

実習（集中実習 2月12日（火）～15日（金））於：岩手県安比高原スキー場

初心者指導実技（安全な転倒の仕方、スケーティング、基本姿勢など）

スノーボード実技1（横滑り）

スノーボード実技2（サイドスリップ）

初心者指導理論・振り返り（講義）

スノーボード実技3（先落としからのサイドスリップ）

スノーボード実技4（ロングターン）

スノーボード実技5（ミドルターン）

スノーボード実技6（ショートターン）

スノーボード検定実施詳細・振り返り（講義）

スノーボード実技7（ずれの少ないターン）

スノーボード実技8（総合滑走）

スノーボード検定9

スノーボード検定10

まとめ・授業評価



野外教育指導実習 I

【担当教員】甲斐知彦

【授業内容】

野外教育論、野外教育実習 A もしくは B を踏まえ、実践での野外教育指導ができるることを目指す。具体的には、野外活動を体験に終わらせず、野外教育として成り立たせるために体験学習サイクルを効果的に展開できるようになることが本授業の目的である。体験学習サイクルを理解し、様々なキャンプ場面で効果的な振り返りから一般化ができるようになることを目標とする。また、そのためのハードスキルも習得目標としたい。

【授業スケジュール】

第1回 オリエンテーション

第2回 指導場面で必要となるハードスキルを知る

第3回 指導場面で必要となるソフトスキルを知る

実習：・企画キャンプでの指導

9月に研究演習履修生の家族および大学生を対象にキャンプを実施した。学生は企画、準備から実施に至るまでをスタッフとして関わり多くの学びを得た実習であった。

・ProjectAdventure 実習

10月に県立嬉野台生涯教育センターにおいて、ProjectAdventure のハイエレメントの体験とその指導方法について学んだ。

第13回 ふりかえり

第14回 まとめ



野外教育指導実習Ⅱ

【担当教員】甲斐知彦

【授業内容】

野外教育指導実習Ⅰを踏まえ、実践での野外教育指導ができるることを目指す。具体的には、野外活動を体験に終わらせず、野外教育として成り立たせるために体験学習サイクルを効果的に展開できるようになることが本授業の目的である。体験学習サイクルを理解し、様々なキャンプ場面で効果的な振り返りから一般化ができるようになることを目標とする。また、そのためのハードスキルも習得目標としたい。

【授業スケジュール】

第1回 オリエンテーション

第2回 指導場面で必要となるハードスキルを知る

第3回 指導場面で必要となるソフトスキルを知る

実習：・大学生を対象としたキャンプの指導

大学生を対象としたキャンプにおいて、グループカウンセラーを担当しファシリテーションを体験的に学んだ。

・企画キャンプでの指導

9月に研究演習履修生の家族および大学生を対象にキャンプを実施した。学生は企画、準備から実施に至るまでをスタッフとして関わり多くの学びを得た実習であった。

第13回 ふりかえり

第14回 まとめ



運動生理学実験実習

【担当教員】河鰐一彦

【授業目的】

運動生理学で学んだ知識を実際に現場で活用できるように実験方法習得を目的とする。運動生理学に関する各種、測定法・解析法の技術取得が到達目標である。

【授業内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 身体計測1
- 第3回 身体計測2
- 第4回 身体組成1
- 第5回 身体組成2
- 第6回 筋力1
- 第7回 筋力2
- 第8回 筋パワー 1
- 第9回 筋パワー 2
- 第10回 心拍数と運動1
- 第11回 心拍数と運動2
- 第12回 呼気ガスと運動1
- 第13回 呼気ガスと運動1
- 第14回 総合実験
- 第15回 まとめ

スポーツバイオメカニックス実験実習

【担当教員】河鰐一彦

【授業目的】

スポーツバイオメカニックスで学んだ知識を実際に現場で活用できるように実験方法習得を目的とする。動作解析・生体強度の測定法、解析法の技術取得が到達目標である。

【授業内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 写真技術1
- 第3回 写真技術2
- 第4回 動画技術1
- 第5回 動画技術2
- 第6回 動作解析1
- 第7回 動作解析2
- 第8回 動作解析3 3次元分析
- 第9回 モーションキャプチャー1
- 第10回 モーションキャプチャー2
- 第11回 生体強度1
- 第12回 生体強度2
- 第13回 総合実験1
- 第14回 総合実験2
- 第15回 まとめ

◆ 正課外での取り組み◆

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験☆合格塾☆

【目的】

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験を考えている学生が、合格に向けてよりよい準備を行うための取り組みである。2012年度からスタートした試みである。

【実施内容】

＜社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格対策ガイダンス＞

日時：6月5日(火)5限@多機能演習室

内容：①国家試験概要・近年の傾向

②エクステンション講座の紹介

③インターネットツールの紹介

④勉強方法について



＜過去問を解いてみよう＞

日時：6月30日(土)10時～16:20

@G号館 321教室

＜教員による対策講座＞

日程	科目	担当教員	受講者数
12月4日(火) 18:30～20:00	相談援助関連科目	川島 恵美	13名
12月5日(火) 17:00～18:30	更生保護制度	山本 智也	12名
12月10日(月) 17:00～18:30	心理学理論と心理的支援	市瀬 晶子	12名
12月12日(水) 17:00～18:30	人体の構造と機能及び疾病	佐藤 洋	11名
12月12日(火) 18:30～20:00	高齢者に対する支援と介護 保険制度」	李 善惠	8名

社会起業学科 新入生歓迎プログラム 社起や DAY !

【概要】

毎年恒例となった社会起業学科の新入生を対象としたイベントを実施した。起業学科についての学び、どのような大学生活を送るのかを考える機会を持つこと、また同じ起業学科の仲間・先輩・教員との交流する場を提供することを目的としている。今年度は社会起業学科 2 年生 12 名が運営スタッフの主体となり運営・企画をした。

【日時】 2018 年 4 月 7 日(土) 10:00~20:00

【場所】 G 号館 301 教室、多機能演習室、OFF TIME (喫茶)

【プログラム】

時間	内容
9:45	開会・礼拝
10:20	アイスブレイク
11:30	実践教育関連の授業紹介
12:10	昼食
13:30	講演会 (ゲストスピーカー) レクリエーション
14:45	(キャンパスウォッチ&体育館レクリエーション)
18:00	夕食・交流会
19:50	閉会式
20:00	解散

【参加者】 計 90 名

(1 年生 68 名、学生スタッフ 12 名、教員 8 名、助手 2 名)

【当日の様子】



福祉系進路相談セミナー

今年度は『福祉系進路相談セミナー』と題して、学部内全学科の学生を対象に計四回講座を開催した。講座全体の目的としては、学生に対し、福祉業界での就職活動の流れや、福祉職の具体的イメージを形成する機会、並びに現在の授業や実習での学びが将来の仕事にどのように結びつくのかについての見通しを立てる機会を提供することが挙げられる。特に一回目では各学科の卒業生で、現在福祉関連分野で御活躍されている先輩方、第四回では福祉業界あるいは一般企業に就職予定の四年生の先輩方をゲストとしてお招きし、学生時代の実習や就職活動に関する体験談等についてお話し頂いた。参加者としては、身近な存在の先輩方をロールモデルとすることにより、具体的な将来像をイメージする機会になったのではないかと思われる。

① 第一回『進路を決めるための基礎知識』

兵庫県社会福祉協議会の宮崎氏、本学キャリアセンターの木村氏と実践教育支援室室長の川島先生にお越し頂いた。前半は木村氏と川島先生による対談方式で、一般就職並びに福祉就職における就職活動のスケジュールや準備、採用担当者の視点、就職に対する心構えについてお話し頂いた。後半は宮崎氏から、福祉業界や業務内容、福祉業界で求められる人材像、福祉就職活動のポイントや福祉人材センターの活用法についてお話し頂いた。

★日時：2018年9月26日（水）18時半～20時

★場所：G号館 多機能演習室

★講師：木村 愛氏（キャリアセンター）

 川島 恵美先生（実践教育支援室）

 宮崎 香衣氏（兵庫県社会福祉協議会 兵庫県福祉人材センター）



★参加者数：1年生9名、2年生13名、3年生14名、計36名

★プログラム：前半『進路を決めるための基礎知識』

 講師：木村 愛氏、川島 恵美先生

 後半『社会福祉職場のお仕事～就職活動の準備に向けて～』

 講師：宮崎 香衣氏

② 第二回『先輩との進路相談会 Part I ～私はこうやって進路を決めました～』

各福祉業界で御活躍されている卒業生の先輩方をゲストとしてお招きした。前半は学生時代の就職活動や現在のお仕事について座談会方式でお話し頂き、後半は各ブースで個別相談

会を実施した。

★ 日時：2018年10月16日（火）18時半～21時

★ 場所：G号館 多機能演習室

★ ゲスト：三学科の卒業生で、福祉関連業界で御活躍されている先輩方6名

*一般企業で働く先輩1名が欠席され、資料のみ配布。

★ 参加者数：2年生4名、3年生6名、4年生1名、計11名

★ プログラム：

18:30～18:35 開会・挨拶

18:35～19:35 先輩からのお話・座談会

19:35～20:55 個別相談会

20:55～21:00 閉会・挨拶



③ 第三回 『福祉の学びをキャリア＝仕事につなげるには？～福祉系公務員編～』

神戸家庭裁判所調査官様、大阪府、神戸市、尼崎市の福祉職の方、人事御担当者様にお越しいただいた。前半は、各自治体の福祉職の魅力、やりがい、採用のプロセスやキャリアアップの仕組み等についてお話し頂き、後半は各ブースで個別相談会を実施した。

★日 時：①2018年12月17日（月） 16時50分～18時20分

②2018年12月19日（水） 16時50分～18時20分

★場 所：G号館 多機能演習室

★ゲスト：①神戸家庭裁判所調査官様、大阪府の福祉職の方、人事御担当者様

②神戸市、尼崎市、大阪府の福祉職の方、人事御担当者様

★参加者数：①2年生3名、3年生6名、4年生1名、大学院生1名、計11名

②2年生5名、3年生8名、計13名

★プログラム：

16:50～16:55 開会・挨拶

16:55～17:45 各自治体よりご説明

17:50～18:15 個別相談会

18:15～18:20 閉会・挨拶



④ 第四回 『先輩との進路相談会 Part II ～私はこうやって進路を決めました～』

福祉業界あるいは一般企業に就職予定の四年生の先輩方をゲストとしてお招きした。前半は就職活動や現在のお仕事について座談会方式でお話し頂き、後半は各ブースで個別相談会を実施した。

- ★ 日時：2019年3月15日（金）14時～16時20分
- ★ 場所：G号館 多機能演習室
- ★ ゲスト：医療、児童、高齢領域の福祉業界、一般企業に就職予定の
4回生の先輩方 4名
- ★ 参加者数：1年生1名、3年生8名、4年生1名、計10名
- ★ プログラム：
 - 14:00～14:05 開会・挨拶
 - 14:05～15:05 先輩からのお話・座談会
 - 15:15～16:15 個別相談会
 - 16:15～16:20 閉会・挨拶



人間福祉学部 実践教育報告会

【目的】

人間福祉学部では 2008 年度の学部設立以来、学内での学びを踏まえた具体的な実践の場として、様々な実践教育プログラムを展開している。2011 年度より、全学科の実践教育を報告する場として「人間福祉学部 実践教育報告会」を開催しており、昨年度に引き続きポスターセッション方式により実施し、他実践教育の報告を通しての学びや気付きを、全体で共有した。

【日時】 2018 年 12 月 15 日（土）

13：00～15：45

【場所】 G301・G201・G202 教室

【タイムスケジュール】

13：00～ 13：10 開会・学部長挨拶

13：10～ 13：20 概要説明

13：30～ 14：45 ポスターセッション

15：15～ 15：45 振り返り・閉会

※同日 10:00～12:00 に『ソーシャルワーク・インターンシップ報告会』

『学校ソーシャルワーク実習報告会』『医療ソーシャルワーク・インターンシップ報告会』『精神保健福祉援助実習報告会』を実施。

【当日の様子】





【当日の参加者数】

参加者	数
報告者	
<社会福祉学科>	
・ソーシャルワーク演習Ⅲ ・ソーシャルワーク実習 ・福祉社会フィールドワーク ・ソーシャルワーク・インターンシップ ・医療ソーシャルワーク・インターンシップ ・学校ソーシャルワーク実習 ・精神保健福祉援助実習	
<社会起業学科>	191名
・社会起業フィールドワーク（国内） ・社会起業フィールドワーク（海外）※スライドショー上映 ・社会起業インターンシップ（国内） ・社会起業インターンシップ（海外） ・社会起業プラクティス ・社会起業アドバンスト・インターンシップ	
<人間科学科>	
・人間科学フィールドワーク	
<大学院>	
・アドバンスト・フィールドワーク	
その他学生	24名
一般	28名
教員・助手	26名
合計	269名

社会福祉士実習合同研究会・懇談会

【目的】

社会福祉士養成のための実習に関して、実習先施設・機関、学生、養成校の三者協働による実習教育のあり方の研究を進めるにあたり、現場の職員の方々と当大学教職員を交えた研究会・懇談会を行う。2009年度からは本研究会・懇談会にて、新カリキュラム対応の相談援助実習の実践報告、モデル実習プログラミングについての協議を行っている。今年度は、今年度実習を振り返り、実習内容や形態、学生の状況について共有し、実習の課題など今後の在り方に関して率直な意見交換を行った

【日時】2019年2月15日（金）18:30～21:00

【場所】関西学院大学 大阪梅田キャンパス 14階

【プログラム内容】

18:30～18:40 開会あいさつ、趣旨説明

18:40～19:40 領域別振り返りとディスカッション（60分）

ディスカッションポイント

- (1) 今年度実習の振り返り
実習内容や形態について 等
- (2) 今後の実習のあり方について、台風や災害など警報発令時の対応について 等
- (3) その他（領域での自由な意見交換）



19:50～20:50 全体共有・まとめ

20:50～21:00 次年度について（退任者紹介）

21:00 閉会あいさつ



【参加者】施設・機関職員 18名、教職員 20名
計 38名

◆ 資料◆

2018年度 実習・インターンシップ等概要データ

実践科目履修者数

学科別	実践教育科目名	人数/名
社会福祉学科	ソーシャルワーク実習	45
	ソーシャルワーク・インターンシップ	3
	医療ソーシャルワーク・インターンシップ	2
	精神保健福祉援助実習	2
	学校ソーシャルワーク実習	3
	福祉社会フィールドワーク	20
社会起業学科	社会起業フィールドワーク(海外)	17
	社会起業フィールドワーク(国内)	65
	国内インターンシップ	2
	海外インターンシップ	2
	社会起業プラクティス	11
	アドバンストインターンシップ	7
人間科学科	人間科学フィールドワーク入門	47
	人間科学フィールドワーク	9
大学院	アドバンストフィールドワーク	4
合計		239

人間福祉学部学生数

学年別	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
社会福祉学科	127	138	131	148	544
社会起業学科	78	77	72	85	312
人間科学科	96	108	101	114	419
合計	301	323	304	347	1275

国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率
社会福祉士	43	19	44.1%
精神保健福祉士	2	2	100.0%

2018年度 実習・インターンシップ・フィールドワーク先一覧

◆ソーシャルワーク実習◆

(順不同)

	種別	施設・機関・団体名	所在地
1	児童	大阪府岸和田子ども家庭センター	大阪府岸和田市
2	児童	大阪府池田子ども家庭センター	大阪府池田市
3	児童	堺市子ども相談所	大阪府堺市堺区
4	児童	社会福祉法人 三光事業団 児童養護施設 三光塾	兵庫県西宮市
5	児童	社会福祉法人 神愛子供ホーム 児童養護施設 神愛子供ホーム	兵庫県神戸市東灘区
6	児童	社会福祉法人 博愛社 児童養護施設 博愛社	大阪府大阪市淀川区
7	児童	社会福祉法人 大阪水上隣保館 児童養護施設 遙学園	大阪府三島郡島本町
8	児童	社会福祉法人 阪南福祉事業会 児童養護施設 あおぞら	大阪府岸和田市
9	児童	社会福祉法人 神戸婦人同情会 児童養護施設 子供の家	兵庫県尼崎市
10	児童	社会福祉法人 大阪府衛生会 児童心理治療施設 希望の杜	大阪府高槻市
11	母子	社会福祉法人 みおつくし福祉会 南さくら園	大阪府大阪市阿倍野区
12	母子	社会福祉法人 神戸新生福祉会 グリーンコート新生	兵庫県神戸市長田区
13	母子	社会福祉法人 三光事業団 ファミリエひかり	兵庫県西宮市
14	母子	社会福祉法人 みおつくし福祉会 東さくら園	大阪府大阪市東成区
15	母子	社会福祉法人 みおつくし福祉会 北さくら園	大阪府大阪市東淀川
16	母子	社会福祉法人 八尾隣保館 ルフレ八尾	大阪府八尾市
17	母子	社会福祉法人 四天王寺福祉事業団 大阪府立女性自立支援センター	大阪府堺市南区
18	医療	社会医療法人 愛仁会 明石医療センター	兵庫県明石市
19	医療	社会医療法人 きつこう会 多根総合病院	大阪府大阪市西区
20	医療	社会医療法人 神鋼記念会 神鋼記念病院	兵庫県神戸市中央区
21	医療	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 大阪府済生会中津病院	大阪府大阪市北区
22	医療	医療法人 沖縄徳洲会 神戸徳洲会病院	兵庫県神戸市垂水区

23	医療	社会医療法人 生長会 ベルピアノ病院	大阪府堺市
24	医療	西宮市立中央病院	兵庫県西宮市
25	高齢	社会福祉法人 聖徳園 にしのみや聖徳園	兵庫県西宮市
26	高齢	社会福祉法人 神戸老人ホーム 特別養護老人ホーム 光明苑	兵庫県神戸市東灘区
27	高齢	社会福祉法人 神戸福生会 伊川谷あんしんすこやかセンター	兵庫県神戸市西区
28	高齢	社会福祉法人聖隸福祉事業団 花屋敷栄光園	兵庫県宝塚市
29	高齢	社会福祉法人きらくえん 芦屋市潮見地域包括支援センター	兵庫県芦屋市
30	高齢	一般財団法人芦屋ハートフル福祉公社 芦屋市精道高齢者生活支援センター	兵庫県芦屋市
31	高齢	社会福祉法人ライフサポート協会 住吉区北地域包括支援センター	大阪府大阪市住吉区
32	高齢	社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会 西成区北西部地域包括支援センター	大阪府大阪市西成区
33	地域	社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会	兵庫県宝塚市
34	地域	社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会	兵庫県西宮市
35	地域	社会福祉法人 泉佐野市社会福祉協議会	大阪府泉佐野市
36	地域	社会福祉法人 三田市社会福祉協議会	兵庫県三田市
37	地域	社会福祉法人 柏原市社会福祉協議会	大阪府柏原市
38	地域	社会福祉法人 伊丹市社会福祉協議会	兵庫県伊丹市
39	公的	尼崎市北部保健福祉センター	兵庫県尼崎市
40	公的	尼崎市南部保健福祉センター	兵庫県尼崎市
41	公的	神戸市兵庫福祉事務所	兵庫県神戸市兵庫区
42	障害	社会福祉法人 三田谷治療教育院 三田谷学園	兵庫県芦屋市
43	障害	社会福祉法人 今川学園 キンダーハイム	大阪府大阪市東住吉区
44	障害	姫路市立 障害者支援センター	兵庫県姫路市
45	障害	社会福祉法人 北摂杉の子会 ジョブサイトよど	大阪府大阪市淀川区

◆ソーシャルワーク・インターンシップ◆

		施設・機関・団体名	所在地
1	在宅医療	NPO法人 愛逢 ホームホスピス 愛逢の家	兵庫県尼崎市
2	児童	公益社団法人 家庭養護促進協会	兵庫県神戸市中央区
3	高齢	社会福祉法人 聖隸福祉事業団 逆瀬川地域包括支援センター	兵庫県宝塚市

◆福祉社会フィールドワーク◆

		施設・機関・団体名	所在地
1	福祉社会	社会福祉法人 神戸真生塾 子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家	兵庫県神戸市中央区
2	福祉社会	一般社団法人 new-look	兵庫県西宮市
3	福祉社会	一般社団法人 里馬	兵庫県神戸市北区
4	福祉社会	毎日新聞社	大阪府大阪市北区
5	福祉社会	萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社	大阪府大阪市西成区
6	福祉社会	NPO法人 にしあらたんぽぽハウス	熊本県阿蘇郡
7	福祉社会	NPO法人 神戸定住外国人支援センター	兵庫県神戸市長田区
8	福祉社会	NPO法人 うり・そだん	大阪府東大阪市
9	福祉社会	認定NPO法人 CPAO	大阪府大阪市生野区
10	福祉社会	NPO法人いけま福祉支援センター	沖縄県宮古島市
11	福祉社会	Henry Street Settlement	アメリカ

◆医療ソーシャルワーク・インターンシップ◆

		施設・機関・団体名	所在地
1	医療	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会吹田医療福祉センター 大阪府済生会吹田病院	大阪府大阪市吹田市
2	医療	社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	大阪府高槻市

◆学校ソーシャルワーク実習◆

		施設・機関・団体名	所在地
1	学校	能勢町教育委員会 能勢ささゆり学園 能勢小学校・能勢中学校	大阪府能勢郡能勢町
2	学校	豊中市教育委員会、豊中市立螢池小学校	大阪府豊中市
3	学校	西宮市立こども未来センター、西宮市立深津小学校	兵庫県西宮市

◆精神保健福祉援助実習◆

		施設・機関・団体名	所在地
1	地域	一般社団法人みーる リカバリースペースみーる	大阪府東大阪市
4	地域	社会福祉法人芦屋メンタルサポートセンター	兵庫県芦屋市
5	地域	医療法人清心会 ちのくらぶ	大阪府八尾市
9	病院	社会福祉法人 天心会 小阪病院	大阪府東大阪市
10	病院	医療法人清心会 八尾こころのホスピタル	大阪府八尾市

◆社会起業インターンシップ(国内)◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	NPO法人 かさおか島づくり海社	岡山県笠岡市
2	NPO法人 西淀川子どもセンター	大阪府大阪市西淀川区

◆社会起業インターンシップ(海外)◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	バティス女性センター	フィリピン

◆社会起業フィールドワーク(国内)◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	NPO法人 暮らしづくりネットワーク北芝	大阪府箕面市
2	株式会社 LITALICO	兵庫県尼崎市
3	ワークメイト	兵庫県神戸市中央区
4	NPO法人 山科醍醐こどものひろば	京都府京都市山科区

◆社会起業フィールドワーク(海外)◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	Payap University	タイ

◆社会起業アドバント・インターンシップ◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	甲子園口駅前商店街振興組合	兵庫県西宮市
2	こくさいひろば芦屋	

◆人間科学フィールドワーク◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	あしなが育英会 神戸レインボーハウス	兵庫県神戸市東灘区
2	大阪市立大空小学校	大阪府大阪市住吉区
3	大阪YMCA国際専門学校 高等課程 表現・コミュニケーション学科	大阪府大阪市西区
4	社会福祉法人 聖和共働福祉会 大阪聖和保育園	大阪府大阪市生野区
5	認定NPO法人 Homedoors	大阪府大阪市北区
6	医療法人社団 あんしんクリニック	兵庫県神戸市中央区
7	アガーラ三宮	兵庫県神戸市中央区
8	アスレティックトレーナー 川平 隆司 氏	
9	アスレティックトレーナー 阿児 嘉浩 氏	

◆人間科学フィールドワーク入門◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	あおぞら色彩楽園	兵庫県神戸市中央区
2	公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院 ホスピス希望館	滋賀県近江八幡市
3	社会福祉法人 聖和共働福祉会 大阪聖和保育園	大阪府大阪市生野区
4	あしなが育英会 神戸レインボーハウス	兵庫県神戸市東灘区
5	農家民宿	徳島県東みよし町
6	大阪YMCA国際専門学校 高等課程 表現・コミュニケーション学科	大阪府大阪市西区
7	特定非営利活動法人 長野総合スポーツクラブ	大阪府河内長野市
8	特定非営利活動法人 庄内わんぱくの杜	大阪府豊中市

◆大学院 アドバンスト・フィールドワーク◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	社会福祉法人 阪南福祉事業会 あゆみの丘	大阪府貝塚市
2	大阪府立子どもライフサポートセンター	大阪府堺市
3	CHILDLINE BOTSWANA	ボツワナ
4	児童養護施設 神戸少年の町	兵庫県神戸市垂水区
5	The office of the United Nations High Commissioner for Refugees	インド／ニューデリー

実践教育科目担当教員一覧

◆社会福祉学科◆

「ソーシャルワーク実習入門」

伊藤 安佐子	川島 恵美
西田 麻由香	原 弘輝
前窪 郁	平尾 昌也
李 善恵	

「ソーシャルワーク演習Ⅳ」

井上 みえ	高橋 味央
永井 文乃	中島 尚美
藤井 博志	藤田 譲
前嶋 弘	渡邊 健

「ソーシャルワーク演習Ⅴ」

川島 恵美	橘高 通泰
李 善恵	

「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」

石川 久展	伊藤 安佐子
井上 みえ	風間 朋子
川島 恵美	小西 加保留
重松 貴美江	高橋 味央
辻田 奈保子	中島 尚美
西田 麻由香	原 弘輝
平尾 昌也	藤井 博志
福田 孝子	藤田 譲
前川 敦	前窪 郁
前橋 信和	李 善恵
渡邊 健	

「福祉社会フィールドワーク指導」および「福祉社会フィールドワーク」

川島 恵美	白波瀬 達也
陳 礼美	平尾 昌也
藤井 博志	安田 美予子
李 善恵	

「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」

風間 朋子

唐津 亜矢子

「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助演習Ⅰ」「精神保健福祉援助演習Ⅱ」

風間 朋子

「ソーシャルワーク・インターンシップ」

大和 三重

前橋 信和

松岡 克尚

「医療ソーシャルワーク・インターンシップ」

徳山 磨貴

「学校ソーシャルワーク実習」

大塚 美和子

西野 緑

前橋 信和

「ソーシャルワーク論B」

平尾 昌也

李 善恵

「ソーシャルワーク論F」

川島 恵美

李 善恵

◆社会起業学科◆

「社会起業インターンシップ(国内)」「社会起業インターンシップ(海外)」

今井 千尋

生田 正幸

澤田 有希子

田原 慎介

村井 琢哉

「社会起業インターンシップ演習(国内)」「社会起業インターンシップ演習(海外)」

今井 千尋

生田 正幸

澤田 有希子

武田 丈

田原 慎介

村井 琢哉

「社会起業プラクティス演習」

田原 慎介

「社会起業フィールドワーク(国内)」「社会起業フィールドワーク(海外)」

田原 慎介

今井 千尋

◆人間科学科◆

「人間科学フィールドワーク入門」

市瀬 晶子	井出 浩
桜井 智恵子	笹塙 育子
辻田 奈保子	藤井 美和
溝畠 潤	山 泰幸

「人間科学フィールドワーク」

桜井 智恵子	笹塙 育子
藤井 美和	溝畠 潤

「人間科学実習入門」

市瀬 晶子	井出 浩
甲斐 知彦	河鰐 一彦
桜井 智恵子	笹塙 育子
佐藤 博信	藤井 美和
溝畠 潤	嶺重 淑
山 泰幸	

「野外教育実習A」／「野外教育実習B」／「野外教育指導実習I」

甲斐 知彦

「運動生理学実験実習」／「スポーツバイオメカニクス実験実習」

河鰐 一彦

◆大学院 人間福祉研究科◆

「アドバンスト・フィールドワーク」

武田 丈	前橋 信和
------	-------

◆実践教育支援室 スタッフ紹介◆

社会福祉学科 準教授	川島 恵美	(室長)
社会福祉学科 準教授	李 善惠	
社会福祉学科 助教授	平尾 昌也	
実習助手	伊藤 安佐子	(社会福祉学科担当)
	西田 麻由香	(社会起業学科担当)
	前窪 郁	(社会起業学科担当)
	辻田 奈保子	(人間科学科担当)
	原 弘輝	(人間科学科担当)
実験実習 指導補佐	風間 崇克	
事務職員	松浦 千代子	(庶務担当)

◆2018年度 発行物一覧◆

- ・2018年度 ソーシャルワーク実習 実習報告会
- ・2018年度 4年生実習・インターンシップまとめ
- ・2018年度 社会起業学科実践教育報告レポート集
- ・2018年度 人間科学フィールドワーク報告集
- ・2018年度 福祉社会フィールドワーク報告会

2018年度
関西学院大学人間福祉学部
Annual Report

2019年3月発行

【編集・発行】 関西学院大学人間福祉学部

【連絡先】 関西学院大学人間福祉学部
実践教育支援室

〒662-8501

兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

TEL 0798-54-6272

Fax 0798-54-6293



KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY